

哺乳類  
鳥類  
爬虫類  
両生類  
汽水・淡水魚類  
昆虫類  
クモ類  
貝類  
甲殻類  
その他動物  
維管束植物  
蘚苔類  
藻類  
キノコ  
EX  
EW  
CR  
EN  
VU  
NT  
DD

### オバエボシガイ

二枚貝綱 イシガイ目 イシガイ科

*Inversidens brandtii* (Kobelt, 1879)

【選定理由】 生息環境の消失や個体数の減少が生じている。  
 【種概要】 愛知県三河地方をタイプ産地とする *Nodularia parcedentata* Haas, 1911は本種の新参シノニム。殻長約20~70 mmの亜方形で、やや膨らみが強く、後背縁は高く盛り上がり、後縁や腹縁は直線的。軟体部は赤みを帯びた乳白色または橙色で、出水管の中央に黒色の色帯がある。グロキディウム幼生は亜円形で鉤状突起を欠く。

【分布】 本州西部（太平洋側では東海地方以西、日本海側では富山平野以西）・九州に分布する日本固有種で、県内では北勢地域1水系、中勢地域4水系から記録されている。

【現況・減少要因】 河川や水路の砂礫底に生息する。一時的な水の枯渇や改修工事による生息環境の大幅な変化により個体群の消失または個体数の減少が確認されている。タナゴ類の産卵基質として、採集圧がかかることも懸念される。

【保護対策】 祓川自然環境保全地域では三重県自然環境保全条例に基づく保護対策が講じられている。本種の生息に適した環境を維持するとともに、河川や水路（生息地の上流を含む）の改修時には本種および幼生の宿主魚類に配慮する必要がある。

【文献】 130, 168, 186, 258.

(上地健琉・木村昭一)

(写真：下段：グロキディウム幼生，1990年，木村昭一採集)



三重県 2025

CR

三重県 2015

CR

環境省 2020

VU

### ヨコハマシジラガイ

二枚貝綱 イシガイ目 イシガイ科

*Inversiumio yokohamensis* (Ihering, 1893)

【選定理由】 既知の生息地は2水系に限られ、生息範囲が狭く個体数も減少している。

【種概要】 殻長約30~70 mmの長卵形、前部から中央部に顆粒状の彫刻と後背部に漣状の彫刻があり、擬主歯と後側歯をもつ。グロキディウム幼生は殻長207~228 μm、殻高185~202 μm（殻長に対する殻高の比は0.83~0.92, n=25, 員弁川水系の計測値）の亜三角形で鉤状突起をもつ。

【分布】 北海道・本州（太平洋側では東海地方以東、日本海側では山陰地方以東）に分布する日本固有種で、県内では員弁川水系と櫛田川水系から記録されている。

【現況・減少要因】 員弁川水系の生息地では現在も再生産が確認されているものの、生息範囲が300 m<sup>2</sup>以下と狭く、周辺の開発や水路の改修による個体群の消失が懸念される。櫛田川水系の祓川では2000年代になって著しく個体数が減少し、近年では確認されていない。

【保護対策】 祓川自然環境保全地域では三重県自然環境保全条例に基づく保護対策が講じられている。本種の生息に適した環境を維持するとともに、河川や水路（生息地の上流を含む）の改修時には本種および幼生の宿主魚類に配慮する必要がある。

【文献】 130, 162, 168, 175, 186.

(上地健琉・木村昭一)

(写真：下段：グロキディウム幼生，1996年，木村昭一採集)



三重県 2025

CR

三重県 2015

CR

環境省 2020

NT

### ニセマツカサガイ

二枚貝綱 イシガイ目 イシガイ科

*Inversiumio yanagawensis* (Kondo, 1982)

【選定理由】 県内の分布域は中勢地域の1水系に限られ、生息範囲が狭く個体数も減少している。

【種概要】 県内に生息する個体群は狭義のニセマツカサガイとは別種の可能性があるため、以下に県内の個体群に基づく形態的特徴を示す。殻長約30~95 mmの長卵形、前部から中央部に顆粒状の彫刻と後背部に漣状の彫刻があり、擬主歯と後側歯をもつ。グロキディウム幼生は殻長225~259 μm、殻高226~243 μm（殻長に対する殻高の比は0.94~1.09, n=20）の亜三角形で鉤状突起をもつ。

【分布】 本州（三重県・京都府・兵庫県・岡山県・広島県）・四国（高知県）・九州（大分県・福岡県・熊本県・鹿児島県）に分布する日本固有種。

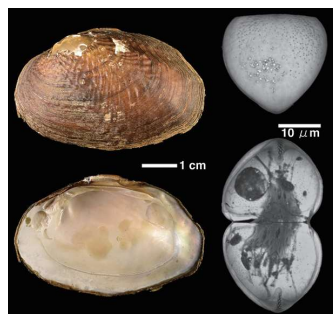
【現況・減少要因】 主要な生息地は近年の改修工事によりほぼ絶滅状態にある。改修工事以前も再生産が確認されておらず、オオクチバスやコクチバス侵入による宿主魚類の減少も減少要因になっていた可能性が高い。現在も再生産が確認されている生息地は極めて狭い範囲に限られる。

【保護対策】 個体数が減少した生息地の再生を図るとともに、生息地周辺の開発や改修の際には本種と宿主魚類に配慮する必要がある。

【文献】 87, 175, 258, 260, 273.

(上地健琉)

(写真：左列：2016年，右列：グロキディウム幼生2019年，上地健琉採集)



三重県 2025

CR

三重県 2015

CR

環境省 2020

NT

## ヤマメタニシ

腹足綱 エゾタマキビ目 イツマデガイ科

*Fukuia integra* (Pilsbry, 1924)

【選定理由】過去に三重県北部（藤原岳・御池岳）での生息記録があるが、最近の調査における生息情報は全くなく、本県個体群の絶滅の可能性も考えられる。

【種概要】殻高4.5 mm程で小型。少旋型の蓋を持つ。きわめて短い触角に黒色の眼点が明瞭で、その後方に黄色の色素を有する。常緑低木の茂みなどで発見される場合が多い。

【分布】分布は、東北地方（秋田県の一部地域）や新潟県から山陰地方までの主に日本海側の多雪地域の山地に集中する。太平洋側では、伊豆半島における分布地が知られる程度。三重県では鈴鹿山系にのみ分布する。

【現況・減少要因】藤原岳・御池岳共にシカ食害による植生の変化などの森林環境の変化や近年の豪雨に伴う環境荒廃が減少要因と推測される。

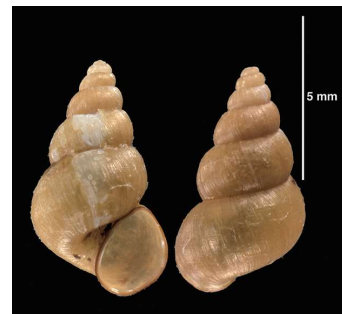
【保護対策】藤原岳・御池岳の環境保全対策が必要。

【特記事項】近年、シブキツボ属*Fukuia*の種に結論付けられた。

【文献】73, 100, 109, 112, 186, 192。

(早瀬善正・木村昭一)

(写真：1984年，木村昭一採集)



三重県 2025

CR

三重県 2015

CR

環境省 2020

CR+EN

## カスガコギセル

腹足綱 マイマイ目 キセルガイ科

*Reinia hungerfordiana* (Möllendorff, 1882)

【選定理由】1968年の平倉演習林（許可なく入林は禁止）の陸産貝類相報告には記録されておらず、1983年に平倉と記録されたのが県下で初めての報告で、その後も他の生息地は見つかっていない。同産地で2007年に生息を確認したが、現状は不明。春から秋の活動期には、広葉樹の大木の幹に着生したコケの間を匍匐しているのが観察されるが、休眠期には大木の周辺の落葉下の礫間など地上に降りて休眠する。生息環境は安定しているが、本種の生息する大木は数本に限られ、生息面積は著しく小さい。また近年、生息地周辺でシカの食害が報告されているので予断は許せない状況である。

【種概要】殻長13 mm，本科としては小型，細長い紡錘形，殻表は弱い光沢を持ち、淡黄褐色の地に不規則な黄白色の斑紋が現れる。殻頂は急に細まる。

【分布】奈良市春日山をタイプ産地とし、三重県の上述の生息地を分布の東限とし、奈良県、大阪府、岡山県、徳島県、大分県に分布するが、生息地は非常に限られ、個体数も少ない。

【現況・減少要因】現状は選定理由参照，減少要因については，森林伐採，森林内の乾燥化，シカの食害などが考えられる。

【文献】179, 186, 189, 265。

(木村昭一)

(写真：1989年，木村昭一採集)



三重県 2025

CR

三重県 2015

CR

環境省 2020

CR+EN

## シリボソギセル

腹足綱 マイマイ目 キセルガイ科

*Megalophaedusa iotaptyx* (Pilsbry, 1900)

【選定理由】三重県下では、きわめて狭い範囲に少数個体が生息するのみで、かろうじて個体群が維持されている状況である。この生息地においても本種の今後の個体群存続が危惧され、絶滅の危機に瀕している確率がきわめて高い種と考えられる。当地の個体は、本種の南限分布地の個体群としても貴重であり保護が望まれる。

【種概要】殻高20 mm程度で小形。三重県の個体は19~21 mm程度。螺層数は11層で多く、細長い形態。殻は紫褐色であるが、磨耗により殻表が灰白色となる個体が多い。石灰岩地域固有種である。

【分布】岐阜県・滋賀県・三重県（伊吹山系から鈴鹿山系にかけて）に分布する。三重県では、北部の藤原岳山麓部（坂本谷（絶滅）、多志田峡）のみの分布および生息記録。

【現況・減少要因】近年（2014年）、以下の引用文献において、本種の三重県での分布や生息情報に関する正式な報告がなされた。この報告以前は、藤原岳山麓（坂本谷）の生息地が一部の研究者に未発表の情報として知られていた。

しかし、坂本谷は、2002年7月に発生した土石流により埋もれ、三重県産の本種は絶滅したと考えられていた。ところが、2013年に行った三重県レッドデータブック改訂のための多志田峡調査において、第2産地が発見された。坂本谷は豪雨災害の際に発生した土石流により環境ごと個体群が消滅した。多志田峡



三重県 2025

CR

三重県 2015

CR

環境省 2020

NT

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

哺乳類  
鳥類  
爬虫類  
両生類  
汽水・淡水魚類  
昆虫類  
クモ類

貝類  
甲殻類  
その他動物  
維管束植物  
蘚苔類  
藻類  
キノコ

EX  
EW  
CR  
EN  
VU  
NT  
DD

では大規模な土石流により多志田川沿いの谷の大部分が土砂で埋もれているが、多志田川に入り込む小さな谷の一部には良好な林を伴うガレ場環境が維持されており、そのような僅かに残された良好な環境のみに生息していた。現在、生息が確認された個体群も周辺環境が崩壊する可能性がないとは言えない状況であり、三重県においては、個体群の絶滅の危険性がきわめて高い種のひとつである。

【保護対策】多志田峡の環境保全対策が必要。さらに、本種の生息する区域を保護する必要性もある。

【特記事項】本種は、地域により殻形態や大きさが明瞭に異なる集団となっている場合があり、個体群間に形態的分化が生じている。今後、解剖学的・分子生物学的研究によるこれら個体群間の差異や遺伝的分化距離を明らかにするためにも、三重県の個体群を保護し維持してゆくことは重要である。

【文献】73.

(早瀬善正・木村昭一)

(写真：左：生息地（石灰岩地），2013年，木村昭一採集)

### ヒロクチコギセル

腹足綱 マイマイ目 キセルガイ科

*Reinia variegata* (A. Adams, 1868)

【選定理由】既知分布地は5以下。近年の生息確認は1地点のみ。県下の生息地と個体数の減少傾向が顕著。

【種概要】殻長9mm，殻径3mm程，6層でやや膨れる。殻表は淡黄褐色で、老成個体は成長脈に沿う不規則な白色斑（火焰彩）が顕著で、美しい。常緑樹などの樹幹（地表から2～3mの位置）に付着する樹上性。宮城県以南の海岸林に広く分布するが、生息地は限定的。伊豆諸島個体群は安定的だが、本州、四国では、生息地・個体数が急速に減少。

【分布】伊豆諸島や宮城県以西の太平洋側に分布地が点在。県内では亀山市（記録を疑問視）、伊勢志摩地域に分布記録がある。

【現況・減少要因】伊勢志摩地域では、殆どの場所で生息確認なし。現存生息地でも生息範囲が狭く、個体数は少ない。海岸林が近年の夏季高温により著しく乾燥化し、その影響で減少の可能性がある。貝類マニアの採集圧も無視できない。

【保護対策】海岸林を保全し、樹木の伐採やマニアによる乱獲の防止が必要。

【特記事項】トカラコギセルとは遺伝的に同種だが、形態的に識別可能で、ここでは別種とする。

【文献】2, 41, 102, 112, 113, 186, 194, 206.

(早瀬善正)

(写真：2022年，木村昭一採集・撮影)

### ウロコマイマイ

腹足綱 マイマイ目 ナンバンマイマイ科

*Satsuma lepidophora* Minato, 2006

【選定理由】既知の生息地は島嶼の1か所のみである。三重県に位置する小さな離島の固有種であり、分類学的にも貴重な種であるため。

【種概要】湊（2006）により新種記載されたが、それまではウロコムロマイマイと仮称されていた種である。殻長10mm，殻径17.5mm程度の薄質で淡黄白色の殻を持つ。

【分布】日本固有種、紀伊長島大島（現：紀北町長島・大島）のみに分布する。

【現況・減少要因】熊野灘に位置する紀伊長島大島では2009年10月に13個体、2011年6月に7個体の確認記録があり（中，2017）、近年まで生息確認されている様であるが、現状は不明。生息環境である林は台風により時々被害を受けるため安定した環境とは言えない。倒木による生息地の乾燥化は、本種個体群の存続に影響を与える。また、島の北側にはクズが侵入しており、林床の乾燥化を助長しているとされる（中・中野，2015）。

【保護対策】定期的に紀伊長島大島での本種の生息状況確認を行い、生息環境および本種個体群の変化に注意を払う必要がある。

【特記事項】生息地である大島は「大島暖地性植物群落」として国の天然記念物に指定されている。

【文献】197, 215, 219.

(早瀬善正)

(写真：原記載図（Minato, 2006）を編集)



三重県 2025

CR

三重県 2015

EN

環境省 2020

CR+EN



三重県 2025

CR

三重県 2015

CR

環境省 2020

CR+EN

## カタハガイ

二枚貝綱 イシガイ目 イシガイ科

*Obovalis omiensis* (Heimburg, 1884)

哺乳類  
鳥類  
爬虫類  
両生類  
汽水・淡水魚類

昆虫類  
クモ類

貝類  
甲殻類

その他動物  
維管束植物  
セン・タイ類  
藻類  
キノコ

EX  
EW  
CR  
EN  
VU  
NT  
DD

**【選定理由】** 生息環境の消失や個体数の減少が生じている。  
**【種概要】** 殻長約40~100 mmの長卵形で、膨らみは弱く、後背縁は盛り上がり、腹縁は直線的、中央部から後部と後背部に連状の彫刻があり、擬主歯と痕跡的な後側歯をもつ。グロキディウム幼生は石灰化が弱く、自然乾燥では形を保てない。殻長約60 μmの亜三角形で、鉤状突起をもつ。  
**【分布】** 本州（太平洋側では東海地方以西、日本海側では新潟県以西）・四国・九州に分布する日本固有種で、県内では北勢・中勢・南勢地域から記録されている。  
**【現況・減少要因】** 小河川や水路などの緩やかな流れの砂泥底や砂礫底に生息する。亀山市・津市・松阪市・明和町・玉城町・伊勢市から記録されているが、亀山市や伊勢市では近年の確認事例がない。改修工事に伴う生息環境の変化や一時的な水の枯渇などにより、個体数が著しく減少した地域もある。  
**【保護対策】** 祓川自然環境保全地域では三重県自然環境保全条例に基づく保護対策が講じられている。個体数が減少した生息地の再生を図り、生息地周辺の開発や改修の際には本種と宿主魚類に配慮する必要がある。  
**【文献】** 1, 130, 168, 176, 178, 186, 209, 212, 259.

(上地健琉・木村昭一)

(写真：下段：グロキディウム幼生，1996，木村昭一採集)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

VU

## イブキムシオイ

腹足綱 ヤマトニシ目 ヤマトニシ科

*“Cipangocharax”* sp.

**【選定理由】** 御池岳の1地点の分布記録のみ。生息確認されたコグルミ谷は土石流により崩壊し、本種の生息が危惧される。県下の個体群は、本種の南限個体群として生物地理学的にも貴重。  
**【種概要】** 殻高2.7 mm、殻径4.0 mm、三重県下のムシオイガイ科で唯一、石灰質様の厚い蓋を持つ種。殻表面は成長肋が明瞭、殻口付近背面には虫様管を備える。未記載種。  
**【分布】** 岐阜県・滋賀県・三重県に分布。伊吹山系など石灰岩地に分布。現時点の三重県下においては、御池岳（コグルミ谷）での生息記録のみ。三重県の生息地は、本種の分布南限域にあたる。  
**【現況・減少要因】** 御池岳では、豪雨に伴う土石流の発生などにより環境が急激に悪化しており、生息が危ぶまれる。  
**【保護対策】** 藤原岳・御池岳の環境保全対策が必要。本種の新たな生息地の発見およびその環境の保護も重要。  
**【特記事項】** 属の所属については近年の研究論文において、異なる属（*Dicharax*）の見解が示されているが、分子系統解析の結果が示されていない現状、ここではコーテーション付きで従来通りの所属とした。  
**【文献】** 75, 109.

(早瀬善正)

(写真：2011年，早瀬善正採集，木村昭一撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

## ノミガイ

腹足綱 マイマイ目 ハワイマイマイ科

*Tornatellides boeningi* (Schmacker & Böttger, 1891)

**【選定理由】** 既知の生息地は2か所のみである。県下では生息地がごく僅かで生息範囲が著しく狭く、生息数が僅かに過ぎない。  
**【種概要】** 海岸地域の落葉の下や海浜植物などの根元付近に生息する殻高3.2 mm、殻径1.8 mmほどの微小な円錐形の種である。褐色で光沢があり、殻口の外唇は肥厚せず薄い。  
**【分布】** 国外では台湾、国内では本州（伊豆半島以南）・四国・九州・沖縄。県内では南勢、紀州地域に分布。  
**【現況・減少要因】** 1995年5月に志摩市（和具大島）1か所、2010年8月に紀北町・大島（紀伊長島大島）1か所での確認記録がある。それぞれ5個体（死殻を含む）、1個体の、少数の生息確認に過ぎない（中，2007，2017）。生息地の2か所ともに島嶼であり、現時点での人為的な影響は少ないと考えられるが、今後の護岸工事などの改変行為が計画された場合への注意は必要である。近年の大規模な気候変動に伴う大型台風など、自然災害により生息環境が大きな影響をうける可能性もある。  
**【保護対策】** 生息地の環境保全が重要である。  
**【文献】** 210, 213, 215.

(早瀬善正)

(写真：2016年，木村昭一採集・撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

VU

哺乳類  
鳥類  
爬虫類  
両生類  
汽水・淡水魚類  
昆虫類  
クモ類  
貝類  
甲殻類  
その他動物  
維管束植物  
蘚苔類  
藻類  
キノコ  
EX  
EW  
CR  
EN  
VU  
NT  
DD

### キバサナギガイ

腹足綱 マイマイ目 キバサナギガイ科

*Vertigo hirasei* Pilsbry, 1901

【選定理由】三重県の記録は5地点以下。海浜植物が茂る自然度の高い砂質海岸に生息するが、そのような海浜部の環境は人的改変行為が行われ易い。本種は本州での希少種でもある。

【種概要】殻高1.5 mm程の短い円筒状の微小種。茶褐色で殻口には4本の歯状突起がある。

【分布】北海道・本州・四国・九州・沖永良部島など奄美諸島まで広く分布するが、生息地は少ない。三重県では散見的な分布情報のみであり、鳥羽市から県南部にかけての離島における分布記録が知られる。

【現況・減少要因】三重県では鳥嶼などの限られた良好な海浜部の環境で確認されている。鳥羽市菅島では、2007年の調査時に、限られた砂浜で死殻がごく少数確認されたのみで生息が危ぶまれる状況。県下の各地域においても、現在も健全な個体群が維持されているのは僅かな狭い場所に限られる。

【保護対策】現時点で特に行われていない。本種が生息する海浜部の環境保全が必要。

【特記事項】本州では特に稀な種であり、生息個体数もきわめて少ない。県下ではヤマトキバサナギ *Vertigo japonica* Pilsbry & Y. Hirase, 1901に誤認したと思われる分布記録もある。

【文献】70, 221, 282.

(早瀬善正)

(写真：2007年，早瀬善正採集)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

CR+EN

### カギヒダギセル

腹足綱 マイマイ目 キセルガイ科

*Megalophaedusa pilsbryi* (Nordsieck, 1997)

【選定理由】県内の生息地は5箇所が記録されている。比較的広い範囲に安定した個体群が確認された県中部のブナ林では倒木下や周辺の落葉の下に限定して生息していた。現在、生息が確実に確認できるのは上述した1地点のみと考えられる。その生息地もシカによる植物の被害が確認され予断は許されない。

【種概要】殻高25 mm，本科としては中型種。殻頂に丸みのある紡錘形で殻口はやや広い。殻皮は淡褐色で、老成個体では剥離している。プリカ（殻口付近の内部構造：図右）は前後に長いカギ状となり和名の由来である。

【分布】近畿地方南部（三重県・奈良県・和歌山県・大阪府南部）に分布し、落葉広葉樹を主体とする自然度の高い自然林の倒木や落葉下に生息する。

【現況・減少要因】前述したような生息場所は近年のシカの被害、林床の乾燥化が要因と考えられる。県南部のカルストでは2度の複数の調査者による精査でも、死殻すら確認されず、危機的生息状況と言える。

【文献】79, 108, 172, 186, 194, 280.

(木村昭一)

(写真：1989年，木村昭一採集)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

VU

### シロバリギセル

腹足綱 マイマイ目 キセルガイ科

*Megalophaedusa stenospira* (A. Adams, 1868)

【選定理由】現時点での三重県の正確な分布記録は2地点。紀伊半島南部の固有種であり貴重。生息数も少なく希少。

【種概要】殻は、殻長17.1 mm，殻径3.9 mm程度。小形で淡黄白色，短い棍棒状で、細く繊細な成長脈が密に現れる。ただし、通常は老成個体が多く、殻表が浸食され風化が著しいため紡錘形状の外形に変形している。雄性器官の内部形状はV字状の襞が交差する形状で本種の特徴を示しており、紀伊半島の本科の種とは異なる。三重県下では著しく稀産。

【分布】タイプ産地は、和歌山県・紀伊大島、和歌山県・奈良県（南部）の産地が知られている。三重県下では最近になり生息確認された。現時点では、紀宝町、熊野市紀和町に生息地が知られる。

【現況・減少要因】自然林の伐採や開発などが懸念される。

【保護対策】本種は良好な自然林に生息し、現在知られている産地の環境保全が必要。他の生息地の発見とその環境保全も重要。

【文献】65, 79.

(早瀬善正)

(写真：2023年，木村昭一採集・撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

—

環境省 2020

NT

哺乳類  
鳥類  
爬虫類  
両生類  
汽水・淡水魚類  
昆虫類  
クモ類  
貝類  
甲殻類  
その他動物  
維管束植物  
蘚苔類  
藻類  
キノコ  
EX  
EW  
CR  
EN  
VU  
NT  
DD

## ミカドギセル

腹足綱 マイマイ目 キセルガイ科

*Megalophaedusa mikado* (Pilsbry, 1900)

【選定理由】石灰岩地の固有種であり、三重県では、御池岳・藤原岳に生息する。石灰岩採掘やシカ食害に伴う林床の乾燥化、近年多発する豪雨に伴う山斜面の崩落や土石流などによる環境の悪化は、本種の生息に深刻な影響を及ぼしている。以前、本種が多産したガレ場の環境でも最近の調査においては、生息確認できなかった場所が多くなっている。三重県北部では、急速に個体群サイズが小さくなっていると考えられ、絶滅の危険度が増大している種である。

【種概要】殻高20~25 mm程度で小型。螺層数はきわめて多く、18層ほどである。殻頂以下の10層は、ほぼ同じ太さで細く、その後体層に向い徐々に太くなる。殻全体がきわめて細長い形態。殻は紫褐色であるが、稀に白色。殻表が風化しやすく、磨耗により灰白色の個体が多い。老成すると殻表面が藻類で覆われ緑色になる。

【分布】岐阜県・滋賀県・三重県の石灰岩地（伊吹・養老・鈴鹿山系）に分布する。三重県では、北部石灰岩地（御池岳・藤原岳）のみに分布が確認されている。

【現況・減少要因】近年、多発する豪雨により、御池岳・藤原岳およびその周辺の石灰岩地では土石流が頻繁に発生し、崩落斜面が各所に見られ、環境荒廃が進んでいる。さらに、シカ食害による下草や低木の消失の影響も加わり、林床部の乾燥化や表土の流出も深刻な状況となっている。かつては湿潤な石灰岩のガレ場環境も、最近では、乾燥し、礫の下には本種の乾いた死殻のみが見られる状況である。本種は低木林林床の湿潤なガレ場環境に生息することから、これらの環境悪化の影響は深刻である。

【保護対策】御池岳・藤原岳を中心とする石灰岩地の環境保全対策が必要である。

【特記事項】本種は、伊吹・養老・鈴鹿山系石灰岩地のみ固有種であり、特徴的な殻形態でもあるため有名なキセルガイ科の一種である。三重県は、本種の南限分布域であるので、本個体群は分類学および生物地理学的にも貴重であり、その保全は重要である。

【文献】73, 74, 75, 109, 112, 186.

(早瀬善正・木村昭一)

(写真：2015年、岩田明久採集)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

NT

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

藓苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

## シリブトギセル

腹足綱 マイマイ目 キセルガイ科

*Megalophaedusa pachyspira* (Pilsbry, 1902)

【選定理由】三重県での分布記録は2地点。紀伊半島南部の固有種であり貴重。生息数も少なく希少。和歌山県南部（熊野川流域）・奈良県南部を分布の中心とする種であり、三重県の生息地は局所分布かつ縁辺分布域になるため。

【種概要】殻は、殻長14.5 mm、殻径3.4 mm程度。小形で淡黄白色、殻頂は鈍く太短い棍棒状で、殻表には繊細な成長脈が密であるが、老成個体が多く、通常は殻表が浸食されている。老成個体の殻口は非常に厚く肥厚する。雄性器官は極端に細長い。

【分布】和歌山県南部（熊野川流域）を中心に分布地が知られている。三重県下では最近、生息確認された。三重県熊野市に分布が知られる。

【現況・減少要因】自然林の伐採や開発などが懸念される。紀伊半島南部の希少な固有種であり貝類マニアの採集圧も個体群減少の要因になると考えられる。

【保護対策】本種は良好な自然林内に生息し、現在知られている生息地の環境保全が必要。

【文献】65, 200, 202, 216.

(早瀬善正)

(写真：2023年、木村昭一採集・撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

—

環境省 2020

VU

哺乳類  
鳥類  
爬虫類  
両生類  
汽水・淡水魚類  
昆虫類  
クモ類  
貝類  
甲殻類  
その他動物  
維管束植物  
蘚苔類  
藻類  
キノコ  
EX  
EW  
CR  
EN  
VU  
NT  
DD

### カナマルマイマイ

腹足綱 マイマイ目 ナンバンマイマイ科

*Satsuma japonica kanamarui* (Hirase, 1909)

【選定理由】藤原岳・御池岳周辺の石灰岩地固有の殻が低く平らな形状となるニッポンマイマイの形態型（亜種）としてきわめて重要。石灰岩採掘や近年多発する豪雨に伴う土石流による森林崩壊などの環境の悪化は、本種の生息好適環境の減少に大きな影響を及ぼしている。

【種概要】殻径20～30 mm程度でやや大型。殻は、螺塔が平らなものと低円錐形のものが見られる。周縁は鋭く角張る。殻の色彩は、淡黄白色あるいは濃褐色（コハクカナマルマイマイ型）の2型が存在する。また、軟体にも黄白色と黒色の2型が見られる。同所に生息する小型のニッポンマイマイとは、分子系統解析の結果、同種とされるが、殻形態における中間的な個体は殆ど出現しない。したがって、これら両形態型（亜種間）には、同種ながら、生殖的隔離があるものと推測される。この隔離は、2亜種の当地域への侵入年代の差により生じたのであろうと推測されるが、輪状種（ring species）の概念に近い関係なのかもしれない。

【分布】滋賀県・三重県の御池岳・藤原岳を中心とする石灰岩地に分布する。なお、岐阜県での分布記録は、人為的移入によるものであり自然分布ではないと考えられている。

【現況・減少要因】藤原岳南面は、石灰岩採掘により既に広域の環境が破壊されている。その上、近年多発する豪雨により、御池岳・藤原岳およびその周辺の石灰岩地では土石流が発生し、環境の崩壊・荒廃が進んでいる。さらに、シカ食害による下草や低木の消失の影響も加わり、林床部の乾燥化や表土の流出も深刻な状況となっている。かつて湿潤な石灰岩のガレ場環境は至る所に見られたが、最近では、植生が失われ乾燥したガレ場が多くなり、礫の下には陸貝の死殻のみが多数散乱する状況が多い。本種は、陽あたりの良好かつ下草が良く茂り保湿性の高い低木林に生息することから、これらの環境悪化の影響は深刻である。

【保護対策】藤原岳の開発（石灰岩採掘）への制限が必要である。このほか、御池岳・藤原岳を中心とする石灰岩地の環境保全対策が必要である。いなべ市藤原町大貝戸の個体群は、螺塔部が低円錐状とならず平坦な形状である。この形状の個体は、特に減少傾向が著しいので、早急な個体群維持の取り組みが必要と思われる。また、この個体群の生息地の一部は、大貝戸登山口休憩所の建設により消失しており、小規模な改変でもこのような希少種が生息している可能性が高い地域は専門家による厳密な事前調査を義務付けるべきである。

【特記事項】三重県指定希少野生動物種。

【文献】73, 74, 75, 99, 109, 112, 159, 186, 203.

(早瀬善正・木村昭一・木村妙子)

(写真：上段：1985, 下段：1983年, 木村昭一採集)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

CR+EN

### ヤマタカマイマイ

腹足綱 マイマイ目 ナンバンマイマイ科

*Satsuma papilliformis* (Kobelt, 1875)

【選定理由】三重県北部（藤原岳・御池岳）に生息記録があるが、確認例はきわめて少ない。三重県では、限られた地域のみ分布する種であり、本種個体群の保護は重要である。

【種概要】殻長30 mm程で螺塔が高い。成貝は臍孔が閉じる。周縁は円く、淡褐色の細い色帯を有する。

【分布】北陸・近畿北部・中部（一部）・中国地方に分布。三重県では藤原岳・御池岳のみに分布する。

【現況・減少要因】近年の調査では新鮮な死殻が稀に見られる程度。もともと個体数が少ない種であるが、藤原岳・御池岳共にシカ食害や豪雨に伴う森林環境の悪化は、減少傾向の増大につながる。

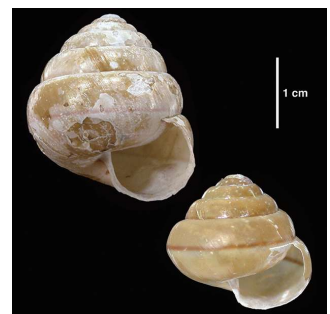
【保護対策】藤原岳・御池岳の環境保全対策が必要。

【特記事項】三重県北部は、本種群の辺縁の分布地のひとつなので、そこに生息する本種個体群の保護は分類学および生物地理学的にも重要である。

【文献】73, 75, 109, 112, 186.

(早瀬善正)

(写真：2011年, 早瀬善正採集, 木村昭一撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

NT

**ミヤマヒダリマキマイマイ (ヒラヒダリマキマイマイ型)** 腹足綱 マイマイ目 ナンバンマイマイ科  
*Euhadra scaevola* (Martens, 1877)

【選定理由】三重県北部で5地点以下。最近の生貝確認記録がきわめて少ない。

【種概要】殻長20 mm, 殻径40 mm程, 螺塔が低い左巻き種。殻表面は成長肋が粗く、茶褐色の殻皮が覆う。臍孔は比較的小さく深い。三重県下の個体群は、種群内で大形低平のヒラヒダリマキマイマイ型（近年では名義タイプ亜種であり関東地方に分布するミヤマヒダリマキマイマイとヒラヒダリマキマイマイとの遺伝的分化が大きいとされている）。

【分布】関東から近畿北部に分布。三重県では主に藤原岳・御池岳に分布。沢沿いなど湿潤な環境に多く見られる。

【現況・減少要因】藤原岳・御池岳共に豪雨に伴う土石流の発生、谷部斜面の崩壊および乾燥化などが要因と推測される。最近では、山麓部で死殻を確認するのがきわめて困難なほど著しい減少傾向にある。

【保護対策】藤原岳・御池岳の環境保全対策が必要。

【特記事項】関東地方より分布する種群の西限分布域近くに位置する個体群である上、関東の個体群とは形態的・遺伝的分化もあるので、個体群としての保護が重要である。

【文献】73, 75, 109, 112, 121, 186.

(早瀬善正)

(写真：2012年，早瀬善正採集，木村昭一撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

VU

環境省 2020

VU

**カタマメマイマイ** 腹足綱 マイマイ目 ナンバンマイマイ科  
*Lepidopisum conospira* (Pfeiffer, 1851)

【選定理由】1951年に神宮林で初めて県下より記録された。1979年には伊勢市、志摩市の各1地点より報告された。その後1985年に大台町で死殻が記録されているが、現在生息は確認されていない。本種は河川沿いの草地や低木林に生息し、陸産貝類の調査としては把握しにくい生息場所であるが、長らく生息が確認されていないのは、生息にとって不適な環境変化が影響している可能性がある。

【種概要】殻は殻径7 mm, 丸み帯び球形に近い。臍孔は狭いが明確に開き、十分に成長した個体では殻口は反転、肥厚する。殻皮は赤褐色で成長脈に沿って突出した微小な低い三角形の突起で被われピロード状。

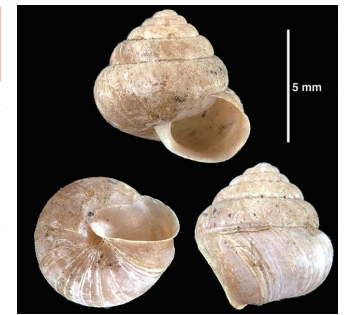
【分布】日本国内では群馬県から広島、四国に分布し、朝鮮半島からも記録がある。分布域における生息地点数と生息面積は非常に小さく、生息地は隔離している。また一度記録された生息地から数年後には再確認されない場合も多い。

【現況・減少要因】現況は選定理由参照。減少要因については、不明。

【文献】134, 186, 264.

(木村昭一)

(写真：1985年，木村昭一採集)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

VU

**ササノハガイ** 二枚貝綱 イシガイ目 イシガイ科  
*Lanceolaria oxyrhyncha* (Martens, 1861)

【選定理由】生息環境の消失や個体数の減少が生じている。

【種概要】分類の見直しにより和名および学名が変更された。江戸時代には出版された目八譜で「サノハ」(物品識名)として紹介されたのが和名の出典で、最近「ガイ」を付与した表記が主流となっている。殻長約40~180 mmの笹の葉形で、後端は嘴状に尖り、前部に耳かき状の彫刻があり、擬主歯と後側歯をもつ。グロキディウム幼生は亜三角形で鉤状突起をもつ。

【分布】本州(東海地方以西)・四国に分布する日本固有種で、県内では北勢・中勢・南勢・伊賀地域から記録されている。

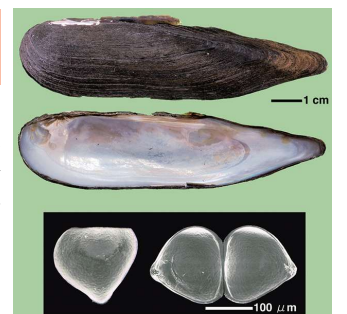
【現況・減少要因】河川や水路、湖沼などの砂泥底に生息する。津市・松阪市・明和町・玉城町・伊勢市・伊賀市で生息が確認されていたが、近年の生息状況が不明な場所が多い。河川の改修や圃場整備に伴う水路の改修などにより減少傾向にある。北勢地域では2000年代以降の確認事例がない。

【保護対策】本種の生息に適した環境を維持するとともに、河川や水路(生息地の上流を含む)の改修時には本種および幼生の宿主魚類に配慮する必要がある。

【文献】1, 130, 168, 176, 177, 186, 208, 214, 220, 262.

(上地健琉・木村昭一)

(写真：1992年，木村昭一採集)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

NT

哺乳類  
鳥類  
爬虫類  
両生類  
汽水・淡水魚類  
昆虫類  
クモ類  
貝類  
甲殻類  
その他動物  
維管束植物  
蘚苔類  
藻類  
キノコ

EX  
EW  
CR  
EN  
VU  
NT  
DD

哺乳類  
鳥類  
爬虫類  
両生類  
汽水・淡水魚類  
昆虫類  
クモ類  
貝類  
甲殻類  
その他動物  
維管束植物  
蘚苔類  
藻類  
キノコ  
EX  
EW  
CR  
EN  
VU  
NT  
DD

### マルタニシ

腹足綱 タニシ目 タニシ科

*Cipangopaludina chinensis laeta* (Martens, 1861)

【選定理由】タニシ科貝類は県内にヒメタニシ、オオタニシと本種が分布している。本種は平野部の水田や用水路などにかつては食用にするほど多産し、最も親しみのある淡水貝であった。近年では水質汚濁、農薬散布、水田の乾田化のため生息地、生息数とも著しく減少した。近年津、松阪市周辺平野部のスクミリンゴガイが少ない湿地環境では回復傾向が認められるが、小形個体がほとんどで個体数もかつての生息状況には程遠い。なお鳥羽市の離島ではわずかに残された水田に大形個体の生息が確認された（2022年調査）。

【種概要】最大で個体では殻高は60 mm、殻径は45 mmに達するが、通常はより小形。乾燥や低温に強く、冬には乾いた水田の畦のくぼみで越冬する。オオタニシとは、本種の体層に刻点状のくぼみがあることや本種の胎貝および幼貝の殻頂が尖らないことで識別できる。

【分布】朝鮮半島、北海道・本州・四国・南西諸島の一部に広く分布するとされる。

【現況・減少要因】選定の理由参照。

【保護対策】水質の浄化、無秩序な護岸工事を避け、農薬散布、用水路の改修、水田の乾田化などの影響の少ない水田、低湿地の保全が不可欠である。

【文献】86, 122, 146.

(木村昭一)

### ベニゴマガイ

腹足綱 ヤマトニシ目 ゴマガイ科

*Diplommatina pudica* Pilsbry, 1902

【選定理由】既知生息地は10以下。三重県下では20年以上未確認であったが、近年、県中南部を中心に散見される。いずれの生息地も著しく低い個体数密度。

【種概要】殻長3.4 mm、殻径1.7 mm程、殻口は円く、体層前面（腹面側）の大部分を占める。螺旋部には斜めに間隔の広い成長肋が明瞭で、以降は高密度。殻色は、紅色や橙黄色（若成貝）。

【分布】静岡県（伊豆半島）と、三重県中南部から和歌山県に分布するが、近年、生息確認の場所は少ない。三重県では、鈴鹿市、亀山市、大台町から熊野市にかけて分布記録がある。

【現況・減少要因】森林環境の荒廃により減少の可能性がある。三重県内の生息地では、自動車道路が隣接する程度で著しい環境変化がないにも関わらず、生息数が少ない。もともと著しく低密度個体群の可能性があるので、近年の急激な気候変動に伴う夏季の異常高温や、大型台風などに伴う豪雨で、さらに個体群減少の可能性が高まると推測される。

【保護対策】本種の生息する森林の開発を行わず自然環境保全することが重要。

【文献】65, 95, 110, 112, 172, 173, 186, 221, 227.

(早瀬善正)

### イノウエヤマトガイ

腹足綱 ヤマトニシ目 ヤマトニシ科

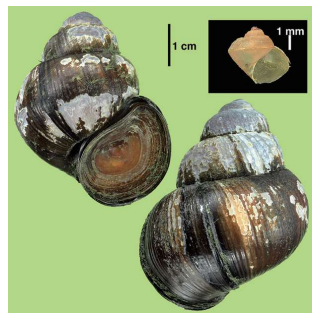
*Japonia inouei* Kuroda & Habe, in Habe, 1961

【選定理由】三重県の記録は1地点のみ。鈴鹿市（小岐須溪谷）で生息が確認されており、その生息域は、きわめて狭い範囲に限られている。三重県内の発見例がこれまでになく、きわめて希少な種である。生物地理学的にも貴重な個体群である。

【種概要】殻径は、4～5 mm程度。小形で淡黄褐色。殻の周縁には先端部が幅の広い花弁状となる殻皮毛を2列備え、生時は泥が殻表を覆っている。蓋は薄く多旋型。軟体は黒色で、触角が長く、基部に眼をもつ。

【分布】紀伊半島（大阪府・和歌山県・三重県）に分布する。県内では、三重県鈴鹿市小岐須町（小岐須溪谷）において、生息確認された。三重県の本種の生息環境は石灰岩地であり、スギ植林に点在する広葉樹の良好な自然林の林床で確認された。本種は石灰岩地域固有種ではないので、三重県下の他の地域で今後発見される可能性もある。

【現況・減少要因】本来、どの生息地においても個体数が少ない種であるが、三重県下での本種の生息域は、これまでに発見例がなかったことより推測すると、きわめて狭い可能性が高い。近年、三重県に生息することが知られたばかりの種であるため、減少傾向は判定できないが、生息範囲が狭い上に、観光やハイキングで訪れる人も意外に多く、人的影響を受けやすい環境下に生息している。



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

VU



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

CR+EN



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

VU

- 哺乳類
- 鳥類
- 爬虫類
- 両生類
- 汽水・淡水魚類
- 昆虫類
- クモ類
- 貝類
- 甲殻類
- その他動物
- 維管束植物
- 蘚苔類
- 藻類
- キノコ
- EX
- EW
- CR
- EN
- VU
- NT
- DD

【保護対策】道路や遊歩道に近い環境で確認されており、道路の拡張や遊歩道の整備などの小規模改変によっても生息が脅かされる可能性もある。小岐須溪谷の自然林の環境保全とともに、たとえ小規模であっても改変行為が行なわれる際は、本種の生息への影響を十分に考慮する必要がある。このほか、他の生息地の発見とその環境の保護も重要である。

【特記事項】三重県できわめて希少な種であると共に、小岐須溪谷は、本種の北限および東限分布地であり、生物地理的観点においても当地の個体群の保護は重要である。なお、三重県初の本種の分布記録や特徴の詳細については、以下の文献に詳述されている。

【文献】69.

(早瀬善正・木村昭一)

(写真：2014年，早瀬善正採集)

**ホラアナゴマオカチグサ近似種** 腹足綱 エゾタマキビ目 カワザンショウガイ科  
*Cavernacmella* aff. *kuzuensis* (K. Suzuki, 1937)

【選定理由】既知の生息地点数は10以下であり、生息場所が石灰洞内に限られる。

【種概要】殻長2mm，殻径1.3mm程度で微小，螺層数は4.5層程。SEM観察では幼層に複数の細い螺溝が明瞭。殻質は薄く，無色透明だが死殻は白色。半月状の薄い革質，少旋型で淡黄色の蓋を持つ。真洞窟棲種で黒色の眼点がない。

【分布】これまで本州，四国，九州，沖縄に広域分布する1種とされていたが，いずれも洞窟ごとに別種とされた。県内では，いなべ市，鈴鹿市，伊勢市，大紀町の石灰洞内で確認されている。石灰洞内の湿った壁面に付着する。

【現況・減少要因】石灰洞で確認されるが，生貝確認例は少ない。岩盤崩落などにより消失した石灰洞がある。洞内が乾燥化した洞もある。洞内乾燥化が最大の減少要因。

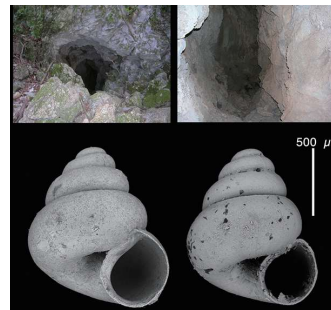
【保護対策】生息地の石灰洞内環境を維持する必要があるため，天然記念物などに指定し環境保全を図る必要がある。

【特記事項】篠立の風穴は，県指定天然記念物。近年，洞窟ごとに別種とされ，ここでは三重県内全ての個体群をホラアナゴマオカチグサに近似する別種とした。

【文献】55，101，109，111，113，186，239.

(早瀬善正)

(写真：2023年，早瀬善正採集，木村昭一撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

NT

環境省 2020

CR+EN

**ホラアナミジンナ** 腹足綱 エゾタマキビ目 Erhaiidae  
*Moria nipponica* Mori, 1937

【選定理由】1979年の三重県産貝類目録に記録はなく，2004年に三重県内1箇所（尾鷲市）の小溪流で少数個体の分布記録が知られていた。2024年に県南部から健全な個体群が報告され，2箇所ではあるが県内産本種の詳細な生息情報が得られた。生息地が限定され，特殊な生息環境であることが確認され，今回情報不足から絶滅危惧種として再評価された。

【種概要】本種はErhaiidaeに所属する微小種で，殻長1.0～1.2mm。殻頂は鈍く円みを帯び，螺層数約4層の短い筒状。臍孔は隙間状に狭く開く。

【分布】西日本を中心に広域に分布するが，各個体群がどの程度の遺伝的分化を示すのかは定かでない。今回は現状の日本産本属全てをホラアナミジンナとする見解に従うが，県南部の生息地は和歌山県白浜町をタイプ産地とするタニガワミジンナ*M. nipponica minatoi*と同定される可能性がある。

【現況・減少要因】県南部の生息地は環境保全区域ではないため，開発行為などが行われた場合には個体群消滅の可能性が高い。山地の谷筋の岩盤より滲出する淡水が谷側河川に向かって静かに流れ落ちる地表部が生息環境で生息基盤は脆弱である。

【文献】18，64，144，186，196，240.

(木村昭一)

(写真：2023年，木村昭一採集)



三重県 2025

VU

三重県 2015

DD

環境省 2020

VU

哺乳類  
鳥類  
爬虫類  
両生類  
汽水・淡水魚類  
昆虫類  
クモ類

### ミズコハクガイ

腹足綱 モノアラガイ目 ヒラマキガイ科

*Gyraulus soritai* Habe, 1976

【選定理由】三重県の記録は2地点。本種は近年まで三重県での生息記録がなかったが、下記の文献により県内の生息が明らかとなった。生息環境である湿地環境の消失や水質悪化に伴う減少が懸念される。

【種概要】殻径4mm程の見かけ上右巻きに見える小形の左巻き種。ヒラマキミズマイマイに似るが、本種は、見かけ上の螺塔（正確には臍孔部分）が僅かに突出し、見かけ上の臍孔（正確には螺塔）は狭く窪む。水深がほとんどなく水溜りの様な湧水湿地の枯葉の下で見つかる場合が多い。希少種で発見例が殆どない。

【分布】関東・北陸以西に分布。三重県では桑名市と志摩市に記録がある。

【現況・減少要因】本種は山麓から平野部の湿地環境に生息する種であるが、湿地環境は宅地造成や道路建設などにより消失傾向にある。

【保護対策】本種が生息する湿地環境の維持が必要。特に、古くからある自然度の高い湿地環境の保全が重要である。

【文献】205.

(早瀬善正)

(写真：2005年，守谷茂樹採集・撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

VU

貝類  
甲殻類  
その他動物  
維管束植物

### クチマガリスナガイ

腹足綱 マイマイ目 スナガイ科

*Bensonella plicidens* (Benson, 1849)

【選定理由】三重県記録は5地点。石灰岩地の固有種で、県下の分布は限定的。湿潤な石灰岩表面の微生息環境に依存する。近年の石灰岩地は、夏季の異常高温や石灰岩採掘等により環境荒廃し、生息場所・個体数が著しく減少。

【種概要】殻長2mm程の微小種。殻は淡茶褐色で、殻口内に複雑な歯状突起が多数存在。安定的なガレ場などで湿った石灰岩に付着。

【分布】本州・四国・九州の石灰岩地に分布。三重県では、いなべ市藤原町・鈴鹿市小岐須町・大紀町阿曾など石灰岩地に分布。

【現況・減少要因】北部石灰岩地では土石流により環境悪化している。大紀町阿曾など、石灰岩地では採掘に伴う林の伐採や、夏季の異常高温などで林床が乾燥し、生息環境が急速に悪化傾向にある。

【保護対策】森林環境の保全・維持が必要。石灰岩採掘規制が必要。

【特記事項】近年、分類学的再検討により、本種は *Bensonella lakainguta* Hwang, 2014 とされた。ただし、現時点で形態比較のみの結果で *plicidens* との分子系統関係は不明。学名変更が必要と思われるが、現状では、これまでの学名のままとした。

【文献】73, 74, 75, 79, 107, 109, 112, 186, 243.

(早瀬善正・木村昭一)

(写真：2011年，2013年，早瀬善正採集)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

VU

EX  
EW  
CR  
EN  
VU

### フトキセルモドキ

腹足綱 マイマイ目 キセルモドキ科

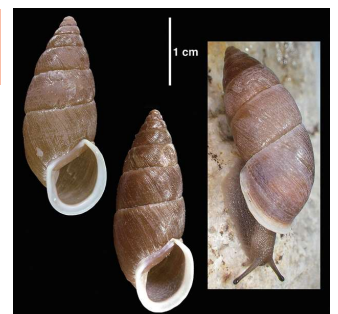
*Mirus japonicus* (Möllendorff, 1885)

【選定理由】三重県の明確な記録は1地点。藤原岳山麓の多志田峡で生息確認されているが、生息域はきわめて狭い範囲のみである。多志田峡では多志田川沿いの大部分が土石流による岩礫で埋もれている状況であり、今後も直ちに環境が改善に向うことは考え難い。そのような環境下での本種の生息は、きわめて絶滅の危険性が高い状況にあると考えられる。

【種概要】殻高30mm程度。多志田峡では類似種であるキセルモドキも生息するが、本種は殻径がより大きく、太く円みを帯びた形状をしている。色彩もキセルモドキより濃褐色になる個体が多い。これらキセルモドキ類は形態変異が大きく分類が難しいグループであるが、三重県下での両種は、殻の形態的特徴により明確に区別されている。

【分布】現時点での本種の明確な分布地は多志田峡のみである。小岐須溪谷などの本種の記録は、標本確認ができず、正確に本種であると断定できず再検討が必要。

【現況・減少要因】現時点で本種の生息が確実な多志田峡では、大規模な土石流により多志田川沿いの谷の大部分が土砂で埋もれてしまったが、一部には良好な自然林を伴うガレ場環境が維持され、そのような僅かに残された環境のみに生息確認された。現在、生息が確認された個体群も周辺環境がいつ崩壊してもおかしくない状況であり、三重県における個体群の絶滅の危険性がきわめて高い。



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

VU

NT  
DD

【保護対策】多志田峡の環境保全対策が必要。さらに本種の生息する区域を保護する必要がある。

【特記事項】本種とキセルモドキが同所に生息する地域は少なく、キセルモドキ類の形態や種分化を研究する上でも三重県のフトキセルモドキは、貴重な個体群である。

【文献】73, 112, 186.

(早瀬善正・木村昭一)

(写真：2013年，早瀬善正採集)

**ミカワギセル** 腹足綱 マイマイ目 キセルガイ科  
*Stereophaedusa hickonis mikawa* (Pilsbry, 1905)

【選定理由】三重県の確認記録は10地点以下。県内では、志摩半島を中心に比較的限られた範囲内に分布。愛知・静岡の個体群とは、伊勢湾により分断された個体群として生物地理学的にも貴重である。

【種概要】殻長20 mm前後。殻表には成長肋が明瞭に現れる。殻の色彩は、茶褐色あるいは黄白色。神島（鳥羽市）の個体群は小形化傾向が強い（殻高13～18 mm程）。本種の西限分布地域と考えられる大紀町阿曾産の個体は、やや大型（殻高27 mm）である。

【分布】静岡県・愛知県・三重県の3県に分布。三重県内では志摩半島周辺に分布。

【現況・減少要因】現状では比較的多産する地域も見られるが、生息範囲は狭く、本種の生息に適した森林環境が減少傾向にある。

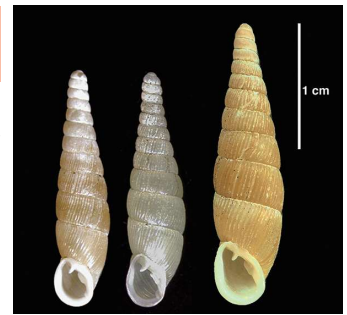
【保護対策】生息地の森林環境の保全・維持が必要。

【特記事項】地域ごとの殻の形態変異が多く遺伝的分化が考えられるので、各地域個体群の保護が重要である。名義タイプ亜種のコンボウギセルと同種とされる場合もあるが、殻の特徴や大きさが明瞭に異なる。

【文献】67, 186, 282.

(木村昭一・早瀬善正)

(写真：2007年，2022年，早瀬善正採集)



三重県 2025	VU
三重県 2015	VU
環境省 2020	NT

**キイツムガタギセル** 腹足綱 マイマイ目 キセルガイ科  
*Megalophaedusa pinguis* (A. Adams, 1868)

【選定理由】三重県の記録は5地点以下。県下では尾鷲市から熊野市の海岸林や一部の内陸部で確認されるのみ。分類学的にも貴重な個体群。

【種概要】殻長20 mm程。小形で殻頂部が細く、それ以降は急に太くなる腹太の形状。ただし、三重県の個体群は小型であるが、和歌山県の個体群ほど極端な腹太の形状を示さない。

【分布】和歌山県南部に広く分布。三重県では尾鷲市から熊野市にかけて限られた地域に生息。

【現況・減少要因】良好な常緑樹林のみに生息する。狭い分布域に生息地があるため、樹木の伐採などにより、海岸部の良好な自然林の減少や林床の乾燥化が懸念される。

【保護対策】吉野熊野国立公園特別保護地域にも生息地が含まれ、一応、保護された形となる地域もある。本種が生息する海岸林全体の環境保全が必要。特に本種が生息する常緑樹の大径木が見られる良好な樹林環境の維持が重要。

【特記事項】三重県に生息するツムガタギセルおよび本種との比較では、解剖学的特徴が明瞭に異なり、両種群は明らかに分化している。

【文献】65, 66, 186.

(早瀬善正)

(写真：2023年，木村昭一採集・撮影)



三重県 2025	VU
三重県 2015	VU
環境省 2020	NT

- 哺乳類
- 鳥類
- 爬虫類
- 両生類
- 汽水・淡水魚類
- 昆虫類
- クモ類
- 貝類
- 甲殻類
- その他動物
- 維管束植物
- 苔苔類
- 藻類
- キノコ

- EX
- EW
- CR
- EN
- VU
- NT
- DD

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

### シロモリサキギセル

腹足綱 マイマイ目 キセルガイ科

*Megalophaedusa matsumurai* (Minato, 2014)

【選定理由】三重県の記録は2地点。紀伊半島の固有種であり貴重。生息数も少なく希少。

【種概要】殻は、殻長14 mm程度。小形で白く、細く繊細な成長肋が密である。ホソヒメギセルに近似するが本種の殻の方が大形。ホソヒメギセル亜属の共通特徴である殻口の上板右側に細い溝が存在する。

【分布】大阪府・和歌山県・奈良県の産地が知られている。三重県下では近年になり、生息確認された。現時点では、大紀町阿曾の石灰岩地と平倉（美杉町）に分布が知られる。ただし、かつて三重県下でホソヒメギセル（ユウビギセル）とされた記録は、本種の誤認記録の可能性もあり、今後の再検討を要する。

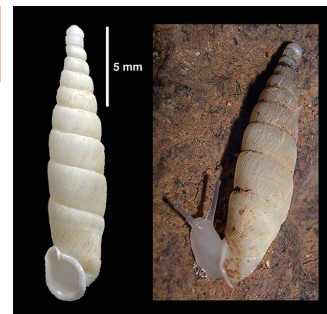
【現況・減少要因】自然林の伐採や開発などが懸念される。

【保護対策】本種は良好な自然林に生息し、現在知られている産地の環境保全が必要。他の生息地の発見とその環境の保全も重要。

【文献】68, 79, 84, 112, 186, 198.

(早瀬善正・木村昭一)

(写真：2023年、早瀬善正採集)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

### イセキビ

腹足綱 マイマイ目 シタラ科

*Trochochlamys humiliconus* (Pilsbry & Y. Hirase, 1904)

【選定理由】三重県中部の固有種と考えられ貴重。生息数も少なく希少。

【種概要】殻は、殻長3.2~3.3 mm、殻径4.0~4.2 mmできわめて薄く半透明の茶褐色。タイプ標本は殻長2.6 mm、殻径3.6 mmでより小形だが、幼貝と考えられる。低円錐形で周縁角はやや鋭い。軟体部は一律に淡黒色。雄性器官には大きく明瞭な付属肢を有し、交尾嚢は柄部を含めて細長く嚢部はやや太くなる。

【分布】三重県中部のみに分布が知られている。タイプ産地は度会郡南伊勢町（伊勢・五カ所村）である。最近、本種の分類学的再検討が行われ、伊勢市（島路山）での生息が確認された。三重県大紀町阿曾にも分布が知られる。

【現況・減少要因】自然林の伐採や開発などが懸念される。近年の大規模な気候変動に伴う夏季の異常高温や大型台風などによる豪雨などに起因する森林環境の悪化が個体群減少の要因になると考えられる。大紀町阿曾では石灰岩採掘も減少の一因となっている。

【保護対策】伊勢神宮林は環境保護されている。本種は良好な自然林に生息し、現在知られている生息地全体の環境保全が必要。

【文献】56, 79.

(早瀬善正)

(写真：2023年、早瀬善正採集、木村昭一撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

—

環境省 2020

DD

### キイキビ

腹足綱 マイマイ目 シタラ科

*Trochochlamys kiiensis* (M. Azuma, 1960)

【選定理由】紀伊半島南部の固有種であり貴重。生息数も少なく希少。

【種概要】殻は、殻長3.2~4.8 mm、殻径4.2~5.3 mmできわめて薄く半透明の茶褐色。低円錐形で周縁角は鋭くキール状。軟体部は淡黒色。雄性器官には先端部が鈍く尖る大きく明瞭な付属肢を有し、交尾嚢は柄部を含めて細長く嚢部の中央は若干太くなる。

【分布】紀伊半島南部のみに分布が知られている。タイプ産地は和歌山県田戸（瀬峡付近の北山峡）である。奈良県南部にも生息する。三重県南部（熊野市、紀宝町）に比較的広く分布するが、生息密度は低い。

【現況・減少要因】自然林の伐採や開発などが懸念される。近年の大規模な気候変動に伴う夏季の異常高温や大型台風などによる豪雨などに起因する森林環境の悪化が個体群減少の要因になると考えられる。

【保護対策】本種は良好な自然林に生息し、現在知られている生息地の環境保全が必要。

【文献】5, 65, 199.

(早瀬善正)

(写真：2023年、早瀬善正採集、木村昭一撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

—

環境省 2020

DD

### タシナミオトメマイマイ

腹足綱 マイマイ目 ナンバンマイマイ科

*Aegista collinsoni collinsoni* (A. Adams, 1868)

【選定理由】既知の生息地は5地点程度。県南部で生息確認されたが、いずれの生息地でも個体数は非常に少ない。

【種概要】殻長9mm、殻径12mm程度、殻の周縁は円く、螺塔は低く低円錐形。殻色は淡黄白色。次体層以前の縫合上と体層周縁には細い茶褐色の色帯を持つ。臍孔は小さいが明瞭。淡黒色の触角を除き軟体腹足部は乳白色。

【分布】紀伊半島南部を中心に主に和歌山県に分布する。三重県では、1979年以前の記録はなかったが、近年、熊野市から尾鷲市にかけての海岸林などで生息や分布が確認された。三重県熊野市の内陸山地でも分布確認されたが、生具は見られず産出自体がきわめて稀であった。

【現況・減少要因】森林環境の荒廃や下草が失われ乾燥化が進行していて、生息確認できる場所は限られる。

【保護対策】本種の生息する森林環境の保全が必要。生息地のひとつである楯ヶ崎（熊野市甫母町）は吉野熊野国立公園特別保護地区であり、一応この地域での環境保護はなされている。

【特記事項】近年の分子系統解析による研究で、オトメマイマイ属 (*Trishoplita*) はオオベソマイマイ属 (*Aegista*) の異名になった。

【文献】65, 66, 85, 186.

(早瀬善正)

(写真：2023年，早瀬善正撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

NT

環境省 2020

NT

### ニオヤカマイマイ

腹足綱 マイマイ目 ナンバンマイマイ科

*Aegista nioyaka* (Pilsbry & Y. Hirase, 1904)

【選定理由】過去の分布地は15か所程だが、近年は減少。東海地方の太平洋岸側に限定的で、地域固有性がやや強い。三重県では志摩半島を中心にその島嶼部までの限られた分布範囲。

【種概要】殻長5.8~6.0mm、殻径7.6~8.0mmで小形。殻は薄く、黄白~褐色、殻表は平滑で鈍い光沢がある。体層周縁は円く、平らな低円錐形状。臍孔は狭小。唇縁は薄く僅かに反曲。

【分布】静岡県、愛知県（渥美半島など）、三重県（伊勢市・鳥羽市）に分布。県内生息地は南勢地域に限定。平地から低山地にかけて低標高の草地に生息。

【現況・減少要因】土地造成などに伴う生息環境消失のほか、鳥羽市内の草地では国内外来種のコハクオナジマイマイ *Bradybaena pellucida* Kuroda & Habe in Habe, 1953 が大量繁殖し、このような地域では本種が競合に敗れ個体群消滅した可能性が高い。

【保護対策】草地環境も一定程度残す配慮が必要。外来種であるコハクオナジマイマイの駆除が必要。

【特記事項】タイプ産地は鳥羽市。近年の研究で旧・オトメマイマイ属 (*Trishoplita*) はオオベソマイマイ属 (*Aegista*) へと所属変更。

【文献】1, 85, 186, 229, 241.

(早瀬善正)

(写真：2007年，早瀬善正採集)



三重県 2025

VU

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

### フチマルオオベソマイマイ

腹足綱 マイマイ目 ナンバンマイマイ科

*Aegista tumida* (Gude, 1901)

【選定理由】三重県の確認記録は2015年時点の記録で14地点、うち2004年以降の記録は6地点。多数の個体が見られた海岸林でも減少傾向にある。主に紀伊半島に分布し固有性が高い。

【種概要】殻径15mm程度。螺塔は低く、平巻き状に近い低円錐形。臍孔は比較的広く深い。殻口の唇縁は、成貝では肥厚し白色となるので明瞭である。

【分布】紀伊半島および渥美半島の一部に分布。三重県では、中~南部に広く分布する。しかし、分布は志摩半島周辺に集中的で、それ以外の分布記録は少ない。

【現況・減少要因】海岸林の林床は、海水由来の湿度により比較的湿潤に保たれるものの、生具は確認困難になっている。温暖化に伴う環境荒廃やコウガイビル類等捕食者の増加など何らかの要因が影響していると思われるが、明確な減少要因は不明。

【保護対策】生息地の森林環境の維持が必要。

【特記事項】亜種キイオオベソマイマイは、明確な差異がなく同一種に扱う。三重県のフリイデルマイマイ、タキカワオオベソマイマイの記録は、主に本種の誤認記録である。

【文献】65, 79, 112, 186.

(早瀬善正)

(写真：2007年，早瀬善正採集)



三重県 2025

VU

三重県 2015

NT

環境省 2020

NT

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

### マツカサガイ

二枚貝綱 イシガイ目 イシガイ科

*Pronodularia japonensis* (Lea, 1859)

【選定理由】 生息環境の消失や個体数の減少が生じている。  
 【種概要】 DNAの情報に基づいて3種に細分化する分類が提案されており、三重県はうち2種の分布境界付近に当たる。この分類における3種の形態的差異は明らかでないため、従来の分類に基づいて評価した。殻は殻長約30~80 mmの卵形で、後背部に分岐する漣状の彫刻があり、擬主歯と後側歯をもつ。出水管内面に乳頭状突起がある。グロキディウム幼生は亜円形で鉤状突起を欠く。  
 【分布】 本州・四国・九州に分布する日本固有種で、県内では北勢・中勢・南勢・伊賀地域から記録されている。  
 【現況・減少要因】 主に河川や水路の砂底や砂礫底に生息し、ため池からも記録されている。県内では約25地点で確認されているが、河川の流量の変化、改修工事による生息環境の大幅な変化などにより一部で個体群の消失または個体数の減少が確認されている。タナゴ類の産卵基質としても需要があり、採集圧がかかることも懸念される。  
 【保護対策】 個体数が減少した生息地の再生を図るとともに、生息地周辺の開発や改修の際には本種と宿主魚類に配慮する必要がある。  
 【文献】 1, 4, 130, 168, 182, 186, 218, 220, 263.

(上地健琉)

(写真：下段：グロキディウム幼生，1994年，木村昭一採集・撮影)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

NT

### イシガイ

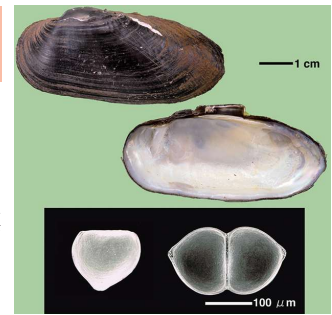
二枚貝綱 イシガイ目 イシガイ科

*Nodularia douglasiae* (Griffith and Pidgeon, 1833)

【選定理由】 生息環境の消失や個体数の減少が生じている。  
 【種概要】 近年の研究ではDNAの情報に基づいて日本産のイシガイ属 *Nodularia* が2種に分類され、三重県はそれらの分布境界付近に当たる。この分類における両種の形態的差異は明らかでないため、従来の分類に基づいて評価した。殻長約30~100 mmの長卵形で、後端が嘴状に尖り、後背部に細い漣状の彫刻があり、擬主歯と後側歯をもつ。グロキディウム幼生は亜三角形で鉤状突起をもつ。  
 【分布】 東アジアに広域分布する。国内では北海道・本州・四国・九州に分布し、県内では北中部の伊勢湾流入河川流域から記録されている。  
 【現況・減少要因】 県内では約30地点の河川、水路、湖沼で生息が確認されているが、河川の流量の変化、改修工事による生息環境の大幅な変化などにより2地点で個体群が消失し、多くの産地で個体数の減少が確認されている。タナゴ類の産卵基質としても需要があり、採集圧がかかることも懸念される。  
 【保護対策】 河川や水路（生息地のの上流を含む）の改修時に本種および幼生の宿主魚類に配慮する。  
 【文献】 130, 168, 169, 176, 182, 186, 189.

(上地健琉・木村昭一)

(写真：下段：グロキディウム幼生，2006年，木村昭一採集)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

### ドブシジミ

二枚貝綱 ドブシジミ目 ドブシジミ科

*Musculium japonicum* (Westerlund, 1883)

【選定理由】 既知の分布地は10地点以下。県内の広範囲に分布確認されているが、具体的な報告例は少ない。近年は乾田化農法など水田管理の方法が大きく変化していると共に、水田自体も所有・管理者の高齢化などにより失われる場合が増加した。生息環境自体が急速に消滅しつつあり本種の減少傾向が増大している。  
 【種概要】 殻長10 mm程度の小形種で、殻は薄い。色彩は淡黄色から灰白色で、殻表は比較的平滑、鈍い光沢がある。流れの緩やかな水路や水田などの泥底に生息する。胎生。  
 【分布】 本州・四国・九州に広くに分布する。三重県では、木曾岬町から南伊勢町、伊賀市などに広く分布記録がある。  
 【現況・減少要因】 農業用水路のコンクリート化あるいはパイプライン化、開発等による土地改変、水田農法の変化や水田自体の消滅により生息環境が大きく失われたことが減少要因である。  
 【保護対策】 水路を改修する際には、三面コンクリート張りではなく、配慮工法を検討する必要がある。一部の放棄水田をビオトープ化することや一部地域の水田農法を旧来の形に戻し、生物面に配慮した管理を奨励するなどの必要もある。  
 【文献】 186, 229.

(早瀬善正)

(写真：1987年，木村昭一採集・撮影)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

哺乳類  
鳥類  
爬虫類  
両生類  
汽水・淡水魚類  
昆虫類  
クモ類  
貝類  
甲殻類  
その他動物  
維管束植物  
蘚苔類  
藻類  
キノコ  
EX  
EW  
CR  
EN  
VU  
NT  
DD

### ゴマオカタニシ

腹足綱 アマオブネ目 ゴマオカタニシ科

*Georissa japonica* Pilsbry, 1900

【選定理由】三重県の記録は5地点程度。三重県下では、北部・中部・南部の限定的な3地域のみで生息記録のある貴重な個体群である。北中部の2地域は石灰岩地であり、開発や乾燥化の影響が心配される。

【種概要】殻長2mmまでの微小種。殻は淡い赤色で螺肋が明瞭。蓋は石灰質。

【分布】本州（関東・北陸以西）・四国・九州・沖縄に広く分布する。ただし、隠蔽種を含み、沖縄の個体群は明らかな別種と考えられている。三重県では北部の藤原町（藤原岳・多志田峡）、中部の大紀町（阿曾石灰岩地）・伊勢市（島路山）、南部の南牟婁郡紀宝町・熊野市紀和町の3地域に生息。

【現況・減少要因】生息地ではきわめて多産する場合もあるが、分布範囲が狭い種である。開発や乾燥化が懸念される。

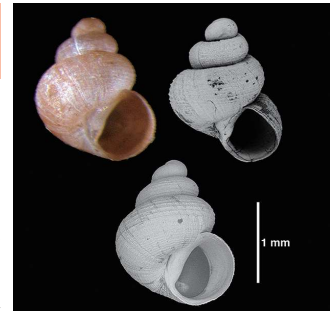
【保護対策】本種の生息地における石灰岩採掘の制限や森林環境の保全。

【特記事項】日本産の本種とされていたものには、実際は遺伝的に異なる3種が含まれているとされた（狩野・福森, 2016）。

【文献】38, 56, 65, 73, 79, 104, 109, 112, 186。

（早瀬善正）

（写真：2023年，早瀬善正採集，木村昭一撮影）



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

NT

### ヤマキサゴ

腹足綱 アマオブネ目 ヤマキサゴ科

*Waldemaria japonica* (A. Adams, 1861)

【選定理由】三重県の記録は5地点以下。三重県内では、御池岳・藤原岳周辺と大紀町阿曾周辺の限定的な2地域のみで生息がみられる貴重な個体群である。2地域は石灰岩地であり、開発や乾燥化の影響が心配される。藤原岳では減少傾向が著しい。

【種概要】本州・四国に広く分布するが各地域固有の形状に分化する。三重県でも2地域の各個体群の形状は異なるとされる。三重県北部の個体群はやや大型で黄色～赤色まで殻の色が変異し、モミジヤマキサゴと呼ばれる型。

【分布】本州・四国に広く分布している。三重県では限定的な2地域のみでの分布。

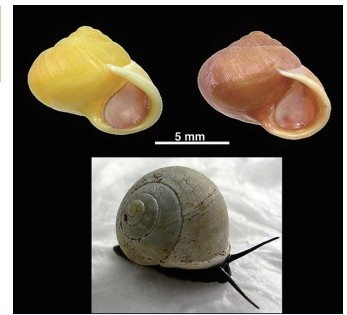
【現況・減少要因】生息地では多産する場合もあるが、分布域が狭い。開発や乾燥化が懸念される。かつては、北部石灰岩地では足の踏み場もない程の夥しい個体数が確認されていたが、近年では、その様な状況を目にしない。

【保護対策】石灰岩採掘の制限や石灰岩地の環境の保全。

【文献】73, 74, 106, 109, 112, 186。

（早瀬善正）

（写真：2013年，早瀬善正採集，木村昭一撮影）



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

### キイゴマガイ

腹足綱 ヤマトニシ目 ゴマガイ科

*Diplommatina kiensis* Pilsbry, 1902

【選定理由】三重県の明確な確認記録は1地点。生息数も少なく希少。

【種概要】殻長3mm程の微小種であるが、日本国内のゴマガイ科のなかではやや大形の種。殻頂部は円錐形でその後は円筒状の形態。殻口唇縁（第1口唇）の後方に隆起（第2口唇）が見られる。近似種のイブキゴマガイとの大きな差異は、第1・第2口唇の間隔がイブキゴマガイでは広いのに対して、キイゴマガイは、ほぼ接している点である。

【分布】紀伊半島南部のみ。三重県下では尾鷲市で確認された。このほか、伊勢市での過去の記録もあるが、イブキゴマガイの誤認記録の可能性が高く、この地域での分布を現時点では疑問視する。

【現況・減少要因】生息密度が低い上、明確な分布域は、きわめて狭い。生息地の環境が現時点で保護されている訳ではなく、開発や森林伐採の可能性がある。

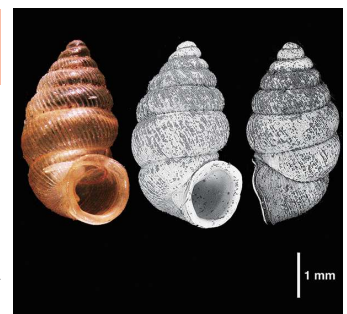
【保護対策】生息地の森林環境の保全・維持が必要。

【特記事項】本種とイシマキゴマガイ、シコクゴマガイとは形態的な区別はできず、今後、DNA解析など分類学的再検討も必要。

【文献】36, 186。

（早瀬善正）

（写真：2013年，早瀬善正採集，木村昭一撮影）



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

哺乳類  
鳥類  
爬虫類  
両生類  
汽水・淡水魚類  
昆虫類  
クモ類  
貝類  
甲殻類  
その他動物  
維管束植物  
蘚苔類  
藻類  
キノコ  
EX  
EW  
CR  
EN  
VU  
NT  
DD

### アツブタガイ

腹足綱 ヤマトニシ目 ヤマトニシ科

*Cyclotus campanulatus* Martens, 1865

【選定理由】三重県の確認記録は10地点以下。三重県内での分布域は狭い。太平洋沿岸部での東限分布域にもあたるので、生物地理を考える上でも三重県の個体群は貴重。

【種概要】殻径15 mm程度の小形種。殻は低円錐形で厚く、螺管が円く、縫合は深い。臍孔は広い。茶褐色で濃い赤褐色の縞模様を有する。蓋は多旋型で石灰化し厚く、比較的平らな形状。

【分布】本州（群馬県以西）・四国・九州に分布するが、分布の中心は西日本である。三重県では鈴鹿市から津市（布引山地山麓部）を中心とする地域と南牟婁郡紀宝町（社寺林）のいずれも狭い範囲に主に分布する。

【現況・減少要因】山麓部の環境に生息する 경우가多く、石灰工場や石灰採石場の周辺などに生息する場合もあり、林の伐採や環境の改変行為などの影響を受ける可能性が高い種である。

【保護対策】生息地の森林環境の保全・維持が必要。

【文献】65, 112, 186, 282.

(早瀬善正・木村昭一)

(写真：2023年，木村昭一採集)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

### サドヤマトガイ

腹足綱 ヤマトニシ目 ヤマトニシ科

*Japonia sadoensis* Pilsbry & Y. Hirase, 1903

【選定理由】既知の生息地点数は10以下であり、生息密度が著しく低い。

【種概要】殻は小形で、殻長5 mm、殻径5.5 mm程度、螺層数は5層。低円錐形で淡黄褐色。殻表には多数の螺条がある。次体層の縫合上に1列、体層周縁中央部に2列のやや長い毛状突起がある。

【分布】本州（関東以西）、四国、九州に分布する。県内では、北勢、中勢、南勢、紀州地域で分布記録がある。落葉堆積のある礫間に生息する。

【現況・減少要因】いなべ市1、鈴鹿市1、津市1、伊勢市2、鳥羽市1、大紀町1、紀北町1か所、紀和町、に分布記録がある。県内では著しく稀産。開発や豪雨などに伴う森林荒廃により、生息環境が悪化している。

【保護対策】県内分布地の多くが国立、国定公園などに該当し環境保護されている。本種の生息地の森林保全が重要。

【文献】78, 109, 113, 186, 193.

(早瀬善正)

(写真：1982年，木村昭一採集・撮影)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

NT

### クロダカワニナ

腹足綱 オニノツノガイ目 カワニナ科

*Semisulcospira kurodai* Kajiyama & Habe, 1961

【選定理由】1979年の三重県産貝類目録に分布記録はないが、他種と混同されていた可能性が高い。1994年には県下の4河川で生息が報告されている。その後県中部の平野部10河川ほどで生息が確認されている。河川中・下流域の流れの緩やかな砂泥底を生息場所とし、カワニナ・チリメンカワニナと比較して人為的な影響を受けやすい。湖沼にも生息する。原記載時に分布が記録されていた津市逆川では現在生息が確認できない。

【種概要】殻長は40 mm程度でカワニナよりやや殻が細長く棍棒状で、殻底の肋が強くその数は6本程度で少ない。胎児殻（体内に保有している個体：図上段中央）は他2種が濃い茶褐色であるのに対して本種は淡いクリーム色で殻長2 mmを越す個体もあり他2種と比べて大きく、保有数は少ない。

【分布】静岡県西部からに岡山県に分布する日本固有種。タイプ産地は兵庫県。近年遺伝子解析が行われ、本種には複数種が含まれていることが示唆され、東海地方にも複数種が分布しているが、今回は従来通り1種として評価されている。

【現況・減少要因】河川水の流量の減少、河川改修工事による底質の改変などが考えられる。

【文献】98, 130, 184, 186, 190, 204, 273.

(木村昭一)

(写真：2023年，木村昭一採集)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

NT

## ヘソカドガイ

腹足綱 エゾタマキビ目 カワザンショウ科

*Paludinellassiminea japonica* (Pilsbry, 1901)

【選定理由】 既知の生息地は5地点程度。県中・南部の海岸での分布・生息が確認されたが、いずれの分布地でも棲息範囲は狭い。

【種概要】 殻長5.3~6.6 mm, 殻径3.9~4.3 mm程度, 殻は薄いが比較的丈夫で, 円錐形。殻色は赤褐色。臍孔は小さく隙間状であるが周囲に稜角ができる。軟体は淡黒色で頭触角はやや長く基部に小さな黒色の眼を有している。海浜棲種で海浜植物の生える海崖に生息する。

【分布】 韓国に分布が知られるほか, 国内では房総半島・能登半島以南の本州, 四国, 九州に分布する。三重県では鳥羽市(島嶼部を含む)や紀伊長島, 熊野市などの海浜部に生息する。三重県での生息地は限定的で棲息範囲は狭い。

【現況・減少要因】 現状では生息地に多数の個体が見られるが, 生息場所は限られる。海岸部は護岸工事が行われる可能性が高く, 自然海岸が残される場所が少なくなっており本種の減少要因となっている。近年多くなった大型台風の海岸環境への影響も懸念される。

【保護対策】 本種の生息する海岸環境の保全が必要。県南部は吉野熊野国立公園地区に該当する場所もあり, 一応この地域での環境保全はなされている。

【文献】 39, 70, 71, 186.

(早瀬善正・木村昭一)

(写真: 2007年, 早瀬善正採集)



三重県 2025

NT

三重県 2015

DD

環境省 2020

—

## オオウスイロヘソカドガイ

腹足綱 エゾタマキビ目 カワザンショウ科

*Paludinellassiminea tanegashimae* (Pilsbry, 1924)

【選定理由】 既知の生息地は5地点以下。県中・南部の海岸での分布・生息が確認されたが、いずれの分布地でも生息範囲はきわめて狭い。

【種概要】 殻長6.1~6.7 mm, 殻径4.5~4.7 mm程度, 殻は比較的厚く, 円錐形。殻色は赤橙褐色(稀に白色)。臍孔は狭く隙間状である。軟体は淡黒色で頭触角はやや長く基部に小さな黒色の眼を有している。海浜棲種。波しぶきを受ける転石浜に生息。

【分布】 房総半島・能登半島以南の本州, 四国, 種子島・屋久島以北の九州に分布する。三重県では鳥羽市(島嶼部を含む)や紀伊長島, 熊野市などの海浜部に生息する。三重県での生息地は限定的で生息範囲は狭く個体数密度も低い。

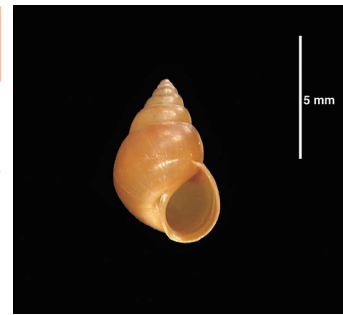
【現況・減少要因】 現状では生息場所は限られ狭く, 個体数密度は低い。海岸部は護岸工事が行われる可能性が高く, 自然海岸が残される場所が少なくなっており本種の減少要因となっている。近年多くなった大型台風の海岸環境への影響も懸念される。

【保護対策】 本種の生息する海岸環境の保全が必要。

【文献】 45, 71.

(早瀬善正・木村昭一)

(写真: 2007年, 早瀬善正採集)



三重県 2025

NT

三重県 2015

DD

環境省 2020

—

## ケシガイ

腹足綱 オカミミガイ目 オカミミガイ科

*Carychium pessimum* Pilsbry, 1902

【選定理由】 三重県の明確な産地は1地点のみ。その産地も土石流により崩壊している。県内では, 分布域が極端に狭く, 希少な種である。

【種概要】 殻長1.8 mm程の微小種であり, 大きさなどニホンケシガイに類似するが, 成長肋が明瞭な特徴などにより区別される。

【分布】 本州・四国・九州などに広く分布するとされるが, いずれも本種のタイプ産地である種子島の個体群とは遺伝的にも異なる別種の可能性が高い。三重県での明確な産地は, 御池岳の狭い範囲(コグルミ谷)のみ。

【現況・減少要因】 御池岳の豪雨による土石流の発生, それに伴う谷斜面の崩壊などが要因。御池岳の生息地(コグルミ谷)の環境は土石流により既に消失しており, 現状は不明。

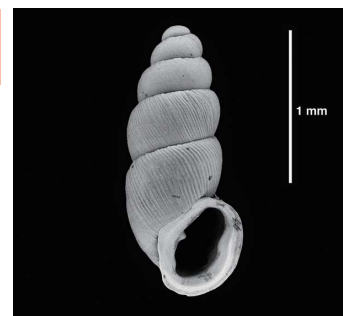
【保護対策】 御池岳の環境保全対策が必要。他の生息地の発見とその環境の保全が必要。

【特記事項】 分類学的再検討が行われ, この地域の固有種となる可能性が高く, 今後, 種名などの変更もあり得る。微小種であるため現状把握が難しいが, 現状のカテゴリーよりも, さらに貴重な種として扱われる可能性を多く含んでいる。

【文献】 75.

(早瀬善正)

(写真: 2011年, 早瀬善正採集, 木村昭一撮影)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

NT

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

藓苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

哺乳類  
鳥類  
爬虫類  
両生類  
汽水・淡水魚類  
昆虫類  
クモ類  
貝類  
甲殻類  
その他動物  
維管束植物  
蘚苔類  
藻類  
キノコ  
EX  
EW  
CR  
EN  
VU  
NT  
DD

**モノアラガイ類 (ナデガタモノアラガイ)** 腹足綱 モノアラガイ目 モノアラガイ科  
*Radix plicatula* ssp.

【選定理由】 既知分布地は50か所程、県内各地に生息したと考えられるが、生息地点、個体数とも減少傾向。

【種概要】 殻長15~20 mm、殻径14 mm程の脆く薄い殻の淡水腹足類。体層は殻長の大部分を占め、螺塔はごく小さい。池や沼、水田、川の上よみなどに棲む。水草や礫に付着するほか、泥底を這う。

【分布】 北海道、本州、四国、九州に分布とされるが、北海道には別種のイグチモノアラガイ (*R. auricularia*) が生息。県内全域で分布記録がある。

【現況・減少要因】 主生息域の水田環境変化や、池、水田自体の消失などに伴い、減少。

【保護対策】 本種などが生息する良好な水田環境は、耕作放棄後、ビオトープなどとして存続させる手立ての検討が重要。

【特記事項】 日本国内のモノアラガイとされてきた個体は、北海道の一部個体群以外は全て大陸の種 *Radix plicatula* の系統群とされた。県内では現状、ナデガタモノアラガイ形状の個体やその変異型（殻口の大きなモノアラガイ様個体）のみ確認される。そのため、モノアラガイに見做される個体を含む在来群をモノアラガイ「類」とし、*R. plicatula* の不詳亜種とした。

【文献】 1, 45, 48, 130, 220, 250, 252.

(早瀬善正)

(写真：2022年、木村昭一採集・撮影)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

NT

**スナガイ** 腹足綱 マイマイ目 スナガイ科  
*Gastrocopta armigerella* (Reinhardt, 1877)

【選定理由】 三重県の確認記録は5地点以下。生息地が少ない上、護岸のない自然度の高い海浜部の砂浜環境の多くが失われており、本種の生息環境が減少している。

【種概要】 海岸棲種であり、海岸林の林縁部の海浜植物が茂る砂地に生息する。落葉など植物の堆積物と砂地の間に見られる種である。殻高2 mm程度の微小種。殻は白色半透明で円筒形。殻口には7本（うち1本は、2歯が癒着し2分岐状）の歯状突起を有している。

【分布】 本州・四国・九州・沖縄に広く分布する。三重県では生息地が主に志摩半島周辺の海岸部や離島に限られる。

【現況・減少要因】 三重県は広い海岸線を有しているが、生息地は少ない。本種は、生息地では、きわめて多数の個体が見られる場合が多いが、海岸線沿いに限定された狭い生息帯のみに分布する。このため護岸の建設などで生息地が容易に破壊され個体群が消失する。

【保護対策】 本種の生息が確認される海浜部の環境の維持が必要。

【文献】 67, 70, 71, 186.

(早瀬善正)

(写真：2007年、早瀬善正採集)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

NT

**ホソヤカギセル** 腹足綱 マイマイ目 キセルガイ科  
*Megalophaedusa hosayaka* (Pilsbry, 1905)

【選定理由】 三重県の確認記録は5地点。県内では、志摩半島を中心に比較的限られた範囲のみに分布する種群。愛知・静岡・長野県産とは伊勢湾により分断された個体群としても貴重。

【種概要】 殻長20~28 mm程で変異幅がある。殻は茶褐色で、螺塔が高く螺層数(13~14層)も比較的多く細長い形状である。

【分布】 長野県の一部地域・静岡県(西部)・愛知県・三重県の4県に分布。三重県内では志摩半島周辺での限定的な分布である。

【現況・減少要因】 比較的多くの個体が生息する地域も見られるが、生息範囲は社寺林などの限られた場所の場合が多く、本種の生息に適した森林環境が減少傾向にあると思われる。

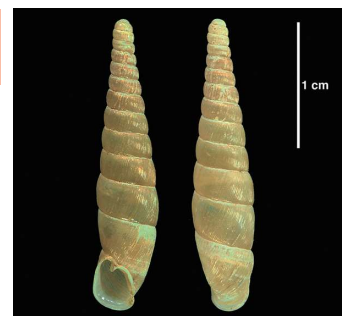
【保護対策】 生息地の森林環境の保全・維持が必要。

【特記事項】 種小名の誤綴りの修正に伴いエンシュウギセルという和名が提唱されたが、古くから広く流布する和名のホソヤカギセルのままで問題ない。

【文献】 90, 112, 186, 282.

(早瀬善正・木村昭一)

(写真：2019年、木村昭一採集)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

NT

### キョウトギセル

腹足綱 マイマイ目 キセルガイ科

*Megalophaedusa kyotoensis* (Kuroda, 1936)

【選定理由】三重県の確認記録は5地点以下。三重県では主に北部に分布範囲が限定される。

【種概要】殻長11~18 mm程度の小形種。大きさには、ばらつきが大きい。殻は淡黄白色であるが、老成して殻皮がはがれ風化し、白化した個体が多い。北部石灰岩地の個体は殻口の唇縁が特に厚くなる。

【分布】京都府・福井県・滋賀県・三重県に分布する。三重県では主に北部の鈴鹿山系に分布する。

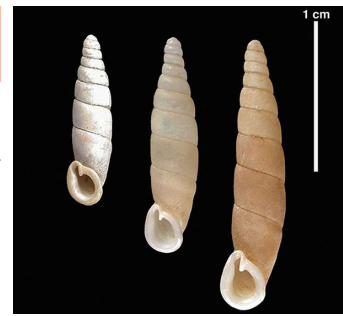
【現況・減少要因】本来個体数の少ない種である。主な分布地である北部石灰岩地における2010年代の調査では、比較的多数の個体が確認されており、増加傾向にある地域も僅かに存在する。しかし、近年の状況は調査されておらず、それ以外の産地では確認自体困難なほど稀な種である。多産する場合もその範囲はきわめて限られている上、石灰岩地の環境が悪化していることによりはなくなり、依然、減少への注意が必要である。

【保護対策】本種の主要な分布地である藤原岳・御池岳の環境保全対策が必要。藤原岳・御池岳では健全な個体群が見られていたため、その維持も重要である。

【文献】73, 74, 75, 109, 112, 186.

(早瀬善正)

(写真：2013年，早瀬善正採集，木村昭一撮影)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

VU

### ハゲギセル

腹足綱 マイマイ目 キセルガイ科

*Megalophaedusa attrita* (Böttger, 1877)

【選定理由】三重県の記録は5地点以下。分布域が狭く希少。

【種概要】殻長は、40 mm程になる大形のキセルガイ類。殻は黄褐色である。

【分布】本州（中部以西）に分布する。三重県では北部山地に分布が集中している。

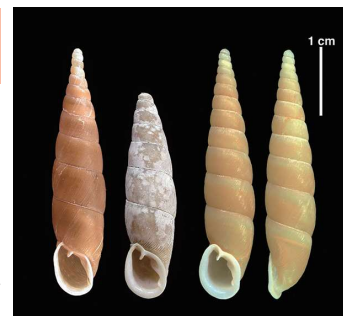
【現況・減少要因】生息地はいずれも自然度が高く、場所によっては高密度での生息状況が確認される。しかし、その場合も大径木の朽木のみ依存しており、きわめて限定的なマイクロハビタットを好む種である。したがって、僅かな環境変化にも対応できない可能性が高い種である。

【保護対策】生息地の良好な森林環境の保全・維持が必要。生息地の一部には石灰岩地も含まれるため石灰岩採掘などの開発や石灰岩地の環境保全についても注意が必要。

【文献】73, 74, 75, 109, 112, 186.

(早瀬善正)

(写真：左：県北部(2011年)，右：県中部(1989年)，木村昭一採集・撮影)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

### チビギセル

腹足綱 マイマイ目 キセルガイ科

*Megalophaedusa expansilabris* (Böttger, 1877)

【選定理由】三重県の明確な記録は2地点。県内では、分布地が限られ、生息地、個体数共に少なく、希少。

【種概要】殻長16 mm程の小形キセルガイ類。殻は赤褐色である。広域分布種とされているが、種内での分化程度や近縁種との分類学的検討が必要な種群と思われる。朽木に集まり生息する傾向が強い種である。

【分布】本州に広く分布する。三重県では、明確な分布地は御池岳・藤原岳に見られる。他にも分布地が散見されるが、分類学的な検討を要する。

【現況・減少要因】北部石灰岩地の個体群は、土石流などの影響により生息環境が狭められている。

【保護対策】生息地の森林環境の保全・維持が必要。石灰岩地の生息地においては、石灰岩採掘などの開発行為や石灰岩地の環境保全についても注意が必要。

【文献】73, 75, 186.

(早瀬善正)

(写真：2011年，早瀬善正採集，木村昭一撮影)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

藓苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

哺乳類  
鳥類  
爬虫類  
両生類  
汽水・淡水魚類  
昆虫類  
クモ類  
貝類  
甲殻類  
その他動物  
維管束植物  
蘚苔類  
藻類  
キノコ  
EX  
EW  
CR  
EN  
VU  
NT  
DD

### ゼイギセル

腹足綱 マイマイ目 キセルガイ科

*Megalophaedusa proba* (A. Adams, 1868)

【選定理由】近畿地方から四国東部にかけての比較的限られた分布域に生息する種である。三重県では南部の、ごく一部地域に明確な生息記録があるのみ。県下では狭く限られた場所に生息する希少種である。人的改変行為の行われ易い、開けた環境に生息しているため、環境保全などの対策がなければ絶滅の危険度が増大する可能性が考えられる。

【種概要】殻長13~15 mm程度で小形。螺層数は10層ほどである。殻頂付近は細い円錐形であるが体層からそれ以前の3層ほどは、ほぼ同幅で円筒状である。殻は茶褐色で、殻表には繊細な成長脈が密に刻まれる。

【分布】近畿地方から四国東部にかけて分布する。三重県では、熊野市の海岸近くの社寺林に僅かな生息地が知られている。県下の志摩市での分布記録に関しては、現時点で本種の記録なのか明確でない。

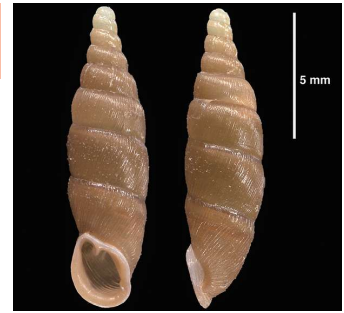
【現況・減少要因】熊野市の生息地は、きわめて狭い範囲に限られているが安定的な個体群が維持されている。ただし、人的改変行為の及びやすい位置にあり、今後も当地の環境や個体群が維持され続けるのか懸念を伴う。

【保護対策】本種の生息地や個体群の保全対策が必要である。

【文献】186, 221, 282.

(早瀬善正)

(写真：2023年，木村昭一採集・撮影)



三重県 2025

NT

三重県 2015

DD

環境省 2020

—

### イボイボナメクジ

腹足綱 アシヒダナメクジ目 ホソアシヒダナメクジ科

*Granulilimax fuscicornis* Minato, 1989

【選定理由】三重県の確認記録は5以下。生息数も少なく希少。

【種概要】生時体長は、20 mm以下の淡黄褐色小形種。触角は黒く、背面に黒褐色の細い環状模様と多数の微細な顆粒状突起を有す。休止時は、特に顆粒が目立ち種和名の由来となる。陸産貝類のみを捕食する肉食性種。雌雄の生殖開口部は別々で、雄性器官には細長い鞭状部を有する。顎板を持たず、歯舌歯はいずれも単歯尖でV字状配列。

【分布】本州・四国・沖縄に亘る広い分布とされるが、実際には多くの隠蔽種が内包される。三重県下では、鳥羽市の離島海岸林から北部石灰岩地の標高1,000 m以上の山頂付近まで生息域は広範だが、確認例はきわめて少ない。

【現況・減少要因】近年の急激な気象変動や開発などによる森林環境悪化が、餌料である小形陸産貝類の減少につながり、本種の減少にも直結する。

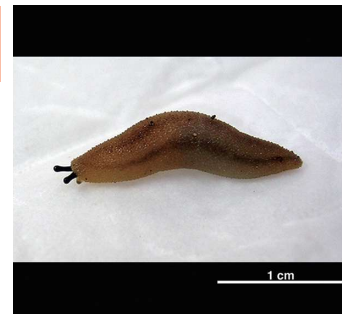
【保護対策】生息地の森林環境の保全・維持が必要。

【特記事項】実際には、形態区別が困難な同胞種 (sibling species) と考えられる隠蔽種が複数種存在する。しかし、ここでは形態的特徴が同様の本類を同種とみなし本県カテゴリー該当種とする。

【文献】43, 67, 72, 73, 74, 75.

(早瀬善正)

(写真：2007年，早瀬善正採集)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

NT

### ヒラベッコウ

腹足綱 マイマイ目 ベッコウマイマイ科

*Bekkochlamys cf. micrograpta* (Pilsbry, 1900)

【選定理由】三重県での分布は北~南部に広域だが、生息数は少ない。近年の大規模な気候変動や大型台風に伴う森林環境悪化で個体群減少が懸念。

【種概要】殻長4.2~4.6 mm, 殻径8.3~9.0 mm程の小形種。殻長7 mm, 殻径15 mm程の大形個体群が和歌山県や三重県南部にも分布し、オオヒラベッコウとされるが同種に扱う。殻はごく薄く黄褐色で光沢が著しい。臍孔はごく小さい。軟体は黒色で殻に納まらず、休止時は左右1対の薄く広い外套葉で殻の殆どを覆う。

【分布】本州(中部以西)・四国(東部の一部)に分布。四国・九州分布個体群は別種の可能性が高いとされる。三重県では広域分布し、良好な山林環境で確認される。

【現況・減少要因】森林環境が、近年の大規模な気候変動に伴う豪雨などで著しく悪化している。開発や森林伐採、シカ食害による下草の消滅とそれに伴う森林乾燥化も大きな減少要因。

【保護対策】生息地の森林環境維持が必要。

【特記事項】オオヒラベッコウとは同種の可能性が高い研究結果があり、ここでは両種を同種に扱う。現学名は種小名変更の可能性がありcf.表記とした。

【文献】40, 51, 65, 73, 112, 186, 221.

(早瀬善正)

(写真：2023年，早瀬善正採集)



三重県 2025

NT

三重県 2015

DD

環境省 2020

DD

## ヒゼンキビ

*Parakaliella hizenensis* (Pilsbry, 1902)

腹足綱 マイマイ目 シタラ科

【選定理由】三重県の明確な産地は2地点程度。主に北部石灰岩地に分布しているため開発や林床の乾燥化、近年頻発する自然災害などの影響が心配される。

【種概要】殻長1.5 mm程度の微小種。殻形態は、低円錐形であり、周縁は円みを帯びる。胎殻周辺に成長脈と螺脈が交差した布目状彫刻が認められる。臍孔は小さいが明瞭に開いている。

【分布】本州・四国・九州に広く分布する。三重県下では現時点では北部石灰岩地などで分布確認されている。

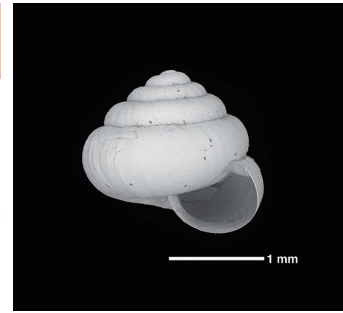
【現況・減少要因】北部石灰岩地に分布が集中しているため石灰岩採掘などの開発や森林伐採、シカ食害、温暖化に伴う森林内の乾燥化の影響が心配される。豪雨に伴う表土の流出や土石流の発生も懸念される。

【保護対策】北部石灰岩地を中心に本種の生息する森林環境の保全が必要。

【文献】42, 52, 73, 74。

(早瀬善正)

(写真：2013年，早瀬善正採集，木村昭一撮影)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

NT

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

## スジキビ

*Parakaliella ruida* (Pilsbry, 1901)

腹足綱 マイマイ目 シタラ科

【選定理由】三重県の記録は5地点以下。生息数も少なく希少。

【種概要】殻長2 mm，殻径4 mm程度の微小種。殻は、殻底部がよく膨れるそろばん玉型で周縁角は強く角張る。螺塔部の殻表には規則的な成長肋が明瞭。本種の生貝は、殻表に泥を付着させている場合が多い。軟体は黒色。ヒメカサキビ *Trochochlamys subcrenulata* (Pilsbry, 1901) は、本種に類似するが、本種よりも一回り小型で周縁角の鋭い特徴などによって容易に区別できる。

【分布】本州（東北から中国地方）に広く分布。三重県では御池岳，野登山，美杉町の記録がある。湿潤な環境の朽木に付着する。

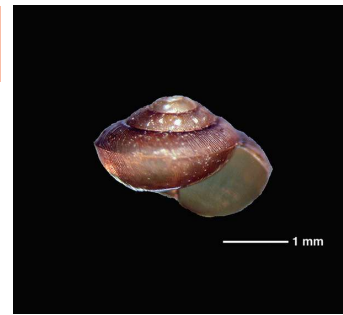
【現況・減少要因】本来生息数が少なく生息環境も限定的な種である。谷部の沢沿いなどの湿潤な自然林の環境に多く生息するが、その様な環境が近年の自然災害や開発などにより荒廃や減少している。

【保護対策】生息地の森林環境の保全・維持が必要。生態的に良好な森林環境下での広葉樹の朽木への依存度が高い種であり、谷部の湿潤で朽木の多い環境の維持が重要。

【文献】46, 53, 75, 76。

(早瀬善正)

(写真：2011年，早瀬善正採集，木村昭一撮影)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

NT

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

## ウメムラシタラ

*Sitalina japonica* (Kuroda & Miyanaga, 1943)

腹足綱 マイマイ目 シタラ科

【選定理由】三重県の確認記録は5地点以下。生息数も少なく希少。

【種概要】殻長1.4 mm，殻径1.7 mm程度の微小種。殻は薄く，淡黄褐色。螺塔が低く，低円錐形。殻の縫合はやや深く，体層周縁に殻皮の隆起を伴う3本程の明瞭な螺肋が見られる。

【分布】タイプ産地は，巨文島の古島（韓国南部）である。日本国内では，本州・四国・九州に広く分布する。三重県では北部の石灰岩地と鳥羽市の離島など志摩半島沿岸部での分布記録がある。

【現況・減少要因】主に山麓や低山地の自然度の高い森林の林床部に生息する種である。里山環境や海岸林は開発などの影響を受け易く，本来，生息密度の低い本種の生息環境は狭められている。

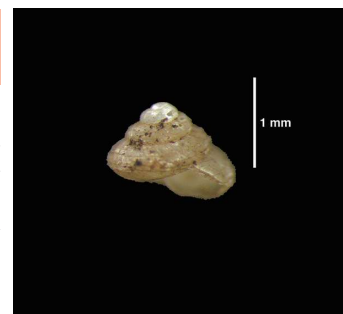
【保護対策】本種の生息する森林環境を維持することが必要。

【特記事項】これまでの命名者と記載年はHabe, 1964とされてきたが，それ以前に同一学名と形態の記述を伴う論文が存在し，その論文著者と発表年が命名者と記載年になった。波部（1964）の記載による本種の学名は，新参異名かつ新参二次同名となり無効となった。

【文献】46, 53, 71, 74。

(早瀬善正)

(写真：2007年，早瀬善正採集)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

NT

哺乳類  
鳥類  
爬虫類  
両生類  
汽水・淡水魚類  
昆虫類  
クモ類

**ヒメカサキビ**

腹足綱 マイマイ目 シタラ科

*Trochochlamys subcrenulata* (Pilsbry, 1901)

【選定理由】三重県の確認記録は10地点以下。生息数は少ない。  
 【種概要】殻長2mm、殻径3mm程度の微小種。殻は、そろばん玉型で周縁角は鋭く突出する。螺塔部の殻表には規則的な成長肋が明瞭。カサキビの幼貝などが類似の形態のため誤認される場合が多く注意が必要。  
 【分布】本州・四国・九州・沖縄に広く分布。三重県下にも広く分布するが確認地は少ない。海岸部や北部石灰岩地の山麓で確認されている。  
 【現況・減少要因】本種は、海岸林や山麓部などの里山的環境に見られる種であり、そのような環境は開発の影響を受け易い。  
 【保護対策】生息地の森林環境の維持が必要。  
 【文献】50, 112, 186.

(早瀬善正)

(写真：2007年，早瀬善正採集)



三重県 2025
NT
三重県 2015
NT
環境省 2020
NT

**ケハダビロウドマイマイ**

腹足綱 マイマイ目 ナンバンマイマイ科

*Nipponochloritis oscitans fragilis* (Gude, 1900)

【選定理由】主に三重県中～南部に分布し、個体数密度も低く、希少。  
 【種概要】殻は、薄く平巻き状。殻皮毛は低密度のまばらな状態で生える。臍孔は成貝においても明瞭に開いている。鈴鹿市周辺では、成貝の臍孔は閉じ、殻皮毛密度が低密度の個体が現れるが、これらはビロウドマイマイ*N. oscitans*として扱う。名義タイプ亜種であるビロウドマイマイとごく近縁である他、多岐の分化も推測され、今後の分類学的な整理が必要な種でもある。  
 【分布】本州に広く分布するとされるが、研究途上の種(グループ)であり、正確な分布域は不明。三重県では主に中～南部に生息する。ヒメビロウドマイマイと同所分布する場合もある。  
 【現況・減少要因】生息密度が低い種である上、生息地の森林環境が現時点で保護されている訳ではなく、開発や森林伐採の可能性がある。  
 【保護対策】生息地の森林環境の保全・維持が必要。  
 【特記事項】三重県に広く分布記録が存在するが、同属他種の混在記録が大半であり、真の分布状況を正確には把握できない。本種を、四国を中心に分布するトサビロウドマイマイに誤認した報告もある。

(早瀬善正)

(写真：2013年，早瀬善正採集，木村昭一撮影)



三重県 2025
NT
三重県 2015
NT
環境省 2020
NT

**ビロウドマイマイ**

腹足綱 マイマイ目 ナンバンマイマイ科

*Nipponochloritis oscitans* (Martens, 1885)

【選定理由】三重県の確認記録は5地点以下。生息密度が低い。三重県では北部に見られる種群として重要。  
 【種概要】殻は殻径20mm程、きわめて薄い。螺塔は僅かに突出し全体的に円みを帯びる。成貝の臍孔は閉じる。殻皮毛は短く密生するが、一部に低密度でまばらな個体群が見られる。軟体は黒色。生殖器官の鞭状器は短く、交尾囊柄部は中央が膨れる。  
 【分布】本州に広く分布する。三重県では北部に分布する。  
 【現況・減少要因】北部石灰岩地では比較的多くの個体が見られるが、石灰岩採掘・森林伐採などの開発やシカ食害、温暖化に伴う乾燥化の影響が心配される。豪雨に伴う表土の流出や土石流の発生も懸念される。  
 【保護対策】生息地の森林環境の維持が必要。  
 【特記事項】三重県ではこれまで、本種がヒメビロウドマイマイなどに誤認されていた経緯がある。県中南部はヒメビロウドマイマイとケハダビロウドマイマイが、県北部にはビロウドマイマイが分布し、比較的明瞭に生息区分が成立している。  
 【文献】65, 73, 74, 75.

(早瀬善正)

(写真：2013年，早瀬善正採集)



三重県 2025
NT
三重県 2015
NT
環境省 2020
DD

貝類  
甲殻類  
その他動物  
維管束植物  
蘚苔類  
藻類  
キノコ  
EX  
EW  
CR  
EN  
VU  
NT  
DD

## ヒメビロウドマイマイ

腹足綱 マイマイ目 ナンバンマイマイ科

*Nipponochroritis perpunctata* (Pilsbry, 1902)

【選定理由】紀伊半島南部の固有種であり貴重。生息数は少なく希少。解剖学的に地域個体群としての種内分化もあるので、それぞれの個体群が貴重。

【種概要】殻は殻径20 mm程できわめて薄い。螺塔が低く、平巻き状。成貝の臍孔は閉じる。殻皮毛は短く密生する。軟体は黒色。生殖器官に地域ごとの分化が見られる。

【分布】紀伊半島南部の固有種。三重県では志摩半島を中心とする地域から熊野市紀和町など南部にかけて広く分布するが、確認例は志摩半島周辺を除き、きわめて少ない。

【現況・減少要因】本来希少な種であるが、生息には自然林の良好な環境が必要であり、その様な環境は、近年の気象変動や開発などの影響を受けて減少している。

【保護対策】現時点で特に行われていない。各地域個体群間の遺伝的分化が考えられるので、各地域個体群単位での保護が重要である。

【特記事項】三重県下では、北部のビロウドマイマイをヒメビロウドマイマイに扱った過去の誤認記録が多数見られる。これらの記録は、修正し取り扱う必要がある。

【文献】65, 80.

(早瀬善正)

(写真：2008年，早瀬善正採集)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

VU

## アナナシマイマイ

腹足綱 マイマイ目 ナンバンマイマイ科

*Satsuma cristata* (Pilsbry, 1902)

【選定理由】三重県の確認記録は10地点以下。生息数は少なく希少。紀伊半島南部の固有種。

【種概要】殻長15 mm程度。殻は円みを帯びたやや低い円錐形。殻口の後方に弱い隆起（クレスト）を生じる。淡い黄褐色～茶褐色で殻表には密に微顆粒が存在するため曇っている。臍孔は完全に閉じ種名由来となる。雄性生殖器官の鞭状器はやや短く先端が鈍い。山地型（小形・濃色）と海岸部型（大形・淡色）では殻の特徴がやや異なっている。

【分布】和歌山県南部から三重県南部。三重県では尾鷲市から熊野市にかけての範囲のみ分布域が見られる。山地にも生息するが、海岸林に特に多い種である。

【現況・減少要因】本来生息密度の低い種であるが、市街地近くの海岸林は開発の影響を受けやすい。

【保護対策】本種の生息が多く確認される海岸林の環境を保全・維持することが必要。生息地のひとつである楯ヶ崎（熊野市甫母町）は吉野熊野国立公園特別保護地区であり、一応この地域での環境保護はなされている。

【特記事項】日本国内の分布域が紀伊半島南部に限定される種であり、そのなかの三重県の生息域は、南部の狭い地域に限定的であり保護が必要。

【文献】65, 66, 186.

(早瀬善正)

(写真：2023年，早瀬善正採集)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

NT

## イセマイマイ

腹足綱 マイマイ目 ナンバンマイマイ科

*Satsuma japonica* ssp.

【選定理由】限られた地域固有のニッポンマイマイ類の形態型として重要。

【種概要】殻長、殻径共に15 mm程で淡黄～濃褐色。殻表は比較的平滑。臍孔は狭く、尾鷲市や熊野市では完全に閉じる個体も確認された。ココロマイマイの三重県での分布記録は、この様に臍孔の閉じた本種の誤認であろう。本種は、紀伊半島で様々な形態分化を生じるニッポンマイマイ類の紀伊半島南部群の一型とみなされる。

【分布】分布域は主に紀伊半島中～南部（おそらく三重県周辺のみ）。三重県では中～南部に分布。

【現況・減少要因】生貝は少ない。谷部の湿潤かつ良好な自然林環境の減少。

【保護対策】生息地の森林環境の保全・維持が必要。

【特記事項】本種は、岡山県をタイプ産地とするシメクチマイマイと長らく混同されてきた。三重県北部の小形のニッポンマイマイは、本亜種には該当しない。本亜種は、シママイマイと同所分布する小形群を指す。

【文献】65, 79, 99, 186.

(早瀬善正)

(写真：2023年，早瀬善正採集)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

### シママイマイ

腹足綱 マイマイ目 ナンバンマイマイ科

*Satsuma japonica simaensis* Kuroda & Habe, in Habe, 1991

【選定理由】三重県での確認記録は多いが、カナマルマイマイと同様、限られた地域に固有のニッポンマイマイ類の形態型として重要な個体群と考えられる。

【種概要】殻長23 mm, 殻径27 mm程の大型個体も見られる。殻は、周縁が円く、重厚かつ螺塔が高くなる傾向がある。淡黄～濃褐色。殻表は平滑。臍孔は小さく開孔。紀伊半島南部で様々な形態分化を生じる紀伊半島南部群ニッポンマイマイ類の一形態型とされる。

【分布】志摩半島を中心に分布し、南部は尾鷲市まで分布確認される。島嶼などの海岸部には生息数が比較的多い。

【現況・減少要因】現状では多くの産地があるが、生貝は高密度で生息しない。海岸林は伐採や開発により消失する場合も多く見られる。

【保護対策】海半島の常緑樹林などの自然林の環境を維持することが必要。

【特記事項】同所分布するイセマイマイと本種は同一種と考えられている。ただし、これら2亜種(型)は、同所に見られ形態的にも明確な区分ができるので、生殖的隔離による形態分化が推測される。

【文献】79, 99.

(早瀬善正)

(写真: 左: 2013年, 右: 1989年, 早瀬善正採集, 木村昭一撮影)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

### クチマガリマイマイ

腹足綱 マイマイ目 ナンバンマイマイ科

*Aegista cavicollis* (Pilsbry, 1900)

【選定理由】三重県での確認記録は10地点以下。生息域が限定的であり希少。

【種概要】殻径5～7 mm程度の小形種。低円錐形で臍孔は広い。成貝の螺管は殻口付近で急に下方に曲がり殻口が下向するため、和名の由来となる。殻口底唇に小隆起が見られる。

【分布】京都府・兵庫県・大阪府・奈良県・和歌山県・三重県・愛知県に分布する。主に紀伊半島の西側に比較的広く分布する。東側では分布域が限られ、愛知県では知多半島の狭い地域のみで生息する。三重県においても鈴鹿市北東部や津市から伊賀市にかけての限定的な範囲である。

【現況・減少要因】市街地に近い丘陵から低山地にかけての生息地が多く、樹木の伐採による林床の乾燥化や土地造成などの開発の影響が及ぶ可能性がある。

【保護対策】社寺林や公園周辺の樹林にも生息地があり、そのような改変行為が行われることが少ないと考えられる林の環境を中心に本種の生息環境の保全・維持が必要。

【特記事項】近畿地方を中心に分布する固有種。本種はかつてクチマガリマイマイ亜属(*Coelorus*)の一種に位置付けられていたが、近年の研究結果より本亜属は成立しなくなった。

【文献】85, 186.

(早瀬善正・木村昭一)

(写真: 1982年, 木村昭一採集)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

NT

### イブキクロイワマイマイ (チビクロイワマイマイ型を含む)

腹足綱 マイマイ目 ナンバンマイマイ科

*Euhadra senckenbergiana ibukicola* Pilsbry, 1928

【選定理由】三重県での確認記録は10以下。三重県北部に分布範囲が限定。主な分布地の北部石灰岩地でも山麓部は、特に減少傾向が大きい。

【種概要】山麓に生息する小形群(殻径43 mm)のチビクロイワマイマイ型から山地に生息するやや大形(殻径44～50 mm)のイブキクロイワマイマイ型まで殻の変異が推移的。

【分布】伊吹・養老・鈴鹿山系を中心に分布。三重県では北部の鈴鹿山系を中心に分布。

【現況・減少要因】山麓部の林は伐採などで乾燥化している。大形美麗種のため貝類マニアによるコレクション目的の採集圧も大きな減少要因。

【保護対策】北部石灰岩地の自然林環境では、土石流などで環境悪化しているが、いまだ比較的多くの個体が確認されており、自然林の環境維持が必要。チビクロイワマイマイ型など山麓部の個体群は、特に減少傾向が著しく、生息地の里山環境の維持とともに採集圧を抑えるための規制を考える必要性もある。

【特記事項】チビクロイワマイマイは、山麓部環境で小形化したイブキクロイワマイマイの一型に過ぎず、明確な分類基準がなく識別不可能なため、本亜種に包括。

【文献】73, 74, 75, 109, 112, 186.

(早瀬善正・木村昭一)

(写真: 左列: 県北部(2013年), 右列: 県中部(1982年), 木村昭一採集)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

### シゲオマイマイ

腹足綱 マイマイ目 ナンバンマイマイ科

*Euhadra sigeonis* Kuroda, 1944

【選定理由】和歌山県を中心に奈良県の一部にも分布する種と考えられていたが、三重県南部の狭い地域にも分布することが明らかとなった。三重県南部の個体群は生息数も少なく希少であり、生物地理学的にも貴重。

【種概要】殻は、殻長17.0~22.0 mm、殻径38.7~40.0 mmで螺塔の低い円錐形。色彩は淡黄色~茶褐色で、色帯は変異に富み0234型、0204型、無帯が見られる。山地型個体は火焰彩が明瞭となる。

【分布】和歌山県に広く分布するほか、奈良県にも分布が知られている。三重県では熊野市紀和町や南牟婁郡紀宝町など、南部のみに分布が知られる。

【現況・減少要因】自然林の伐採や開発などが懸念される。近年の大規模な気候変動に伴う夏季の異常高温や大型台風などによる豪雨などに起因する森林環境の悪化が個体群減少の要因になると考えられる。

【保護対策】本種は良好な森林環境に生息し、現在知られている生息地の環境保全が必要。

【文献】65, 234.

(早瀬善正)

(写真：2023年、早瀬善正採集)



三重県 2025

NT

三重県 2015

—

環境省 2020

—

### ヒルゲンドルフマイマイ

腹足綱 マイマイ目 ナンバンマイマイ科

*Aegista hilgendorfi* (Kobelt, 1879)

【選定理由】三重県では北部に分布範囲が限定。主分布地の北部石灰岩地では、近年の気候変動に伴う環境悪化で、大きな減少傾向にある。

【種概要】殻径11~14 mm程、薄く淡黄褐色~濃褐色。螺塔はやや低く低円錐形。軟体は灰白から黒色。

【分布】伊吹・養老・鈴鹿山系を中心に東海地方に広く分布。三重県では鈴鹿山系を中心に北部に分布。

【現況・減少要因】かつて北部石灰岩地には多数生息したが、近年の調査では限られた範囲に少数確認される程度。石灰岩採掘などの開発、森林伐採、シカ食害、温暖化に伴う乾燥化の影響が考えられる。豪雨に伴う表土の流出や土石流の発生も懸念される。

【保護対策】生息地の森林環境維持が必要。主な分布地である北部石灰岩地の森林環境の保全も必要。

【特記事項】過去にはオオヒルゲンドルフマイマイ、チャイロオトメマイマイ等の記録もあるが、三重県産の上記各種はいずれも本種の形態変異と考え、すべて本種に包括。なお、近年の研究で旧オトメマイマイ属 (*Trishoplita*) はオオベソマイマイ属 (*Aegista*) へと所属変更された。

【文献】73, 74, 75, 85, 109, 112, 186.

(早瀬善正)

(写真：2012年、早瀬善正採集)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

VU

### ナガオカモノアラガイ

腹足綱 マイマイ目 オカモノアラガイ科

*Oxyloma hirasei* (Pilsbry, 1901)

【選定理由】既知の分布地は10か所程。県内の確認例は多くない。いずれの生息地でも確認個体数は少ない。

【種概要】殻長12 mm、殻径6 mm程、螺塔は小さい。殻は薄く殻色は淡黄色。水辺の植物の茎や葉上にみられる。産卵は4月と8月に2回のピークを持ち、夏季に個体数を増大させる。

【分布】関東から九州にかけての平野部に分布し、安定した水位を保つ細流や水路の水際などに生息。県内では伊勢平野、伊賀地方などに分布し、池沼や河川、水田周辺などの湿地で確認される。

【現況・減少要因】亀山市、松阪市から伊勢市にかけての湿地環境に生息するが、個体数は少ない。宅地造成、河川や池沼の改修、水田農法の変化や水田自体の消滅により生息環境が急速に失われたことが減少要因。

【保護対策】河川や池沼付近の湿地植生を維持すると共に、一部の放棄水田をビオトープとすることや一部地域の水田農法を旧来の形に戻し、生物面に配慮した管理を奨励するなどの必要がある。冬季の生息場所が本種の真の生息地であり、その環境を改変しない。産卵場所は湿地植生に限られるので産卵場所の環境保全をする必要がある。

【文献】34, 44, 102, 112, 186.

(早瀬善正)

(写真：2022年、佐藤達也採集、木村昭一撮影)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

NT

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

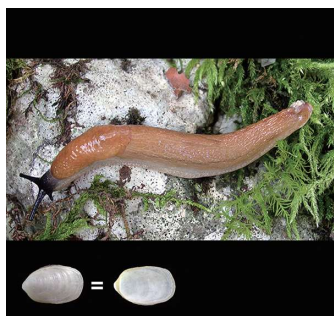
NT

DD

哺乳類  
鳥類  
爬虫類  
両生類  
汽水・淡水魚類  
昆虫類  
クモ類  
貝類  
甲殻類  
その他動物  
維管束植物  
蘚苔類  
藻類  
キノコ  
EX  
EW  
CR  
EN  
VU  
NT  
DD

**オオコウラナメクジ** 腹足綱 マイマイ目 オオコウラナメクジ科  
*Nipponarion carinatus* Yamaguchi & Habe, 1955

【選定理由】三重県の記録は2地点。生息数は少なく、希少。  
 【種概要】成体と考えられる個体の体長は、生時35 mm程度。触角は黒く、体全体は茶褐色であるが、黒色の小斑が見られる個体もある。背面前方に楕円形の外套楯があり、その内部には、内面がくぼみ楕円形で比較的厚い白色の殻が内在する。体中部から後端までの背面中央部に稜角が見られ収縮時には顕著である。  
 【分布】本州・四国・九州に広く分布する。三重県下では、主に藤原岳・御池岳など北部石灰岩地に生息するが、大杉谷の記録も見られる。  
 【現況・減少要因】本来希少な種である上、主な分布地である北部石灰岩地の環境が、近年の大規模な気候変動に伴う豪雨災害などにより著しく悪化している。石灰岩採掘などの開発や森林伐採、シカ食害による下草の消滅とそれに伴う森林の乾燥化も本種の大きな減少要因になると考えられる。  
 【保護対策】本種は石灰岩地の固有種ではないが、良好な自然林に棲む山地性種であり、現在、生息が知られる北部石灰岩地の環境や自然林の保全が必要。増加するシカへの対策も必要である。  
 【文献】73, 74.  
 (早瀬善正)  
 (写真: 2012年, 早瀬善正採集)



三重県 2025
NT
三重県 2015
NT
環境省 2020
NT

**ミナミタガイ** 二枚貝綱 イシガイ目 イシガイ科  
*Beringiana fukuharai* Sano, Hattori & Kondo in Lopes-Lima et al., 2020

生息状況は不詳。確実な記録は北勢地域（安濃川水系や鈴鹿川水系など）に限られる。  
 【文献】96, 182, 217, 253.  
 (上地健琉)

三重県 2025	三重県 2015	環境省 2020
DD	—	—

**ヌマガイ種群** 二枚貝綱 イシガイ目 イシガイ科  
*Sinanodonta lauta* species complex

生息状況は不詳。確実な記録は伊賀地域に限られる。  
 【文献】217, 253, 274.  
 (上地健琉)

三重県 2025	三重県 2015	環境省 2020
DD	—	—

**キュウシュウゴマガイ** 腹足綱 ヤマトニシ目 ゴマガイ科  
*Diplommatina tanegashimae kyushuensis* Pilsbry & Y.Hirase, 1904

県北部と南部の分布記録のみ。ゴマガイに誤同定された記録が多く、全域で再検討が必要。分布情報不足。  
 【文献】65, 73, 75.  
 (早瀬善正)

三重県 2025	三重県 2015	環境省 2020
DD	DD	—

**トウカイヤマトガイ** 腹足綱 ヤマトニシ目 ヤマトニシ科  
*Japonia katorii* Minato, 1985

三重県下で北部の記録のみ。本来、希産種だが、最近の確認記録が無く現状不明。  
 【文献】73.  
 (早瀬善正)

三重県 2025	三重県 2015	環境省 2020
DD	DD	VU

**マメタニシ** 腹足綱 エゾタマキビ目 エゾマメタニシ科  
*Parafossarulus manchouricus japonicus* (Pilsbry, 1901)

木曾岬町など3箇所から記録はあるが、詳細不明で情報不足。高いカテゴリーの絶滅危惧種の可能性もある。  
 【文献】186.  
 (木村昭一)

三重県 2025	三重県 2015	環境省 2020
DD	DD	CR

**カワコザラ** 腹足綱 モノアラガイ目 ヒラマキガイ科  
*Ferrissia nipponica* (Kuroda in S. Uchida, 1949)

分子系統解析ではカワコザラの記録の大半が移入種メリケンコザラである。最近在来種である本種の存在が確認されたが未だ情報不足。  
 【文献】147, 248, 249.  
 (木村昭一)

三重県 2025	三重県 2015	環境省 2020
DD	—	CR

<b>ヒメヒラマキミズマイマイ</b> <i>Gyraulus</i> sp.	腹足綱 モノアラガイ目 ヒラマキガイ科	三重県 2025	三重県 2015	環境省 2020
		DD	—	EN

三重県内3箇所（津市，多気郡明和町，鳥羽市）で確認されているが，微小種であり生息情報は依然不足している。

【文献】64, 251.

（木村昭一）

<b>ヒラドマルナタネ</b> <i>Pupisoma harpula</i> Reinhardt, 1886	腹足綱 マイマイ目 ミジンマイマイ科	三重県 2025	三重県 2015	環境省 2020
		DD	DD	—

三重県下で北部の記録のみ。常緑低木等の枝に付着。生息情報が殆どない。三重県下では希産種の可能性あり。

【文献】73, 74, 109, 112.

（早瀬善正）

<b>ヒメコハク類（在来個体群）</b> <i>Hawaiiia</i> sp.	腹足綱 マイマイ目 エゾエンザ科	三重県 2025	三重県 2015	環境省 2020
		DD	—	—

三重県では篠立風穴洞内1記録。自然林内棲在来群であり，平地環境棲外来群のヒメコハクガイは該当しない。

【文献】57.

（早瀬善正）

<b>ウラウズタカキビ</b> <i>Coneuplecta</i> sp.	腹足綱 マイマイ目 シタラ科	三重県 2025	三重県 2015	環境省 2020
		DD	—	—

タカキビに誤認されていた。県北部や中部の2記録のみ。県内で広域分布と思われるが現時点で分布状況不明。

【文献】37, 47.

（早瀬善正）

<b>ハクサンベッコウ</b> <i>Nipponochlamys hakusana</i> (Pilsbry & Y. Hirase in Y. Hirase, 1907)	腹足綱 マイマイ目 シタラ科	三重県 2025	三重県 2015	環境省 2020
		DD	DD	DD

三重県伊賀市の1記録のみ。県内の本属は，種定義となる解剖学的検討が殆ど行われておらず分布状況不明。

【文献】49, 59.

（早瀬善正）

<b>キヌツヤベッコウ</b> <i>Nipponochlamys semisericata</i> (Pilsbry, 1902)	腹足綱 マイマイ目 シタラ科	三重県 2025	三重県 2015	環境省 2020
		DD	DD	DD

三重県の記録はあるが，解剖学的検討による正確な分類がなされた本種の分布記録は皆無であり情報不足。

【文献】59, 73, 109, 112, 186.

（早瀬善正）

<b>スガシマヒラマキベッコウ</b> “ <i>Nipponochlamys</i> ” sp. 1	腹足綱 マイマイ目 シタラ科	三重県 2025	三重県 2015	環境省 2020
		DD	DD	—

鳥羽市（菅島）での記録のみ。常緑樹の林床，ガレ場の礫下で確認。近年和名が提唱された未記載種であり半地下棲の希産種。

【文献】54, 70, 71.

（早瀬善正）

<b>ミノベッコウ近似種</b> <i>Nipponochlamys</i> sp. 2	腹足綱 マイマイ目 シタラ科	三重県 2025	三重県 2015	環境省 2020
		DD	DD	DD

三重県北部，多志田峽と大紀町阿曾の2記録のみ。未記載種であり希産。分布情報は殆どない。

【文献】33, 73, 79.

（早瀬善正）

哺乳類  
鳥類  
爬虫類  
両生類  
汽水・淡水魚類  
昆虫類  
クモ類  
貝類  
甲殻類  
その他動物  
維管束植物  
蘚苔類  
藻類  
キノコ  
EX  
EW  
CR  
EN  
VU  
NT  
DD